

# 令和7年度事業報告



## 建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に  
引き出し引き伸ばし、社会に有為な  
人材を養成する。

# 目 次

1. 法 人 全 体 . . . 1
2. 吉 備 国 際 大 学 . . . 2 5
3. 九 州 医 療 科 学 大 学 . . . 5 4
4. 九 州 医 療 科 学 大 学 専 門 学 校 . . . 6 9

# 法人全体

## I. 令和7年度 学園の運営方針

本学園は、建学の理念をすべての柱として、順正学園でしかできない特色ある教育を実現するため、次の方針により学園運営を行う。

### (1) 建学の理念の達成

「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念をすべての柱として、学生一人ひとりにあった、きめ細かい指導により国家試験合格率を高め、専門知識と豊かな心を持った人材を社会に輩出できるよう努める。

また、スチューデントサポートセンター、キャリアサポートセンター及びラーニングサポートセンターなどが連携して、エンロールメント・マネジメントによる支援体制を充実させ、退学者を出さない積極的な支援を行う。学修環境の整備について、今年度は、吉備国際大学開学35周年記念事業として整備を進めていた吉備国際大学学生会館「KIUB（キューブ）」の工事を完了し運用開始するなど充実を図る。

各大学の教務部教育イノベーション課を中心として、学修成果の可視化や学修者本位の教育への転換の取り組みをさらに推進する。

### (2) 学生募集の強化と18歳人口の減少を見据えた多様な学生の受け入れ

学生募集に関して、設置校のブランディングにもとづく広報活動を展開し学生募集を強化する。また、高梁市・順正学園特別奨学金制度をはじめとする本学独自の学生支援についても広報する。また、募集状況や将来展望を分析し、より魅力ある学部学科への再編を含めた募集戦略により学生確保に努める（後述）。

さらに、国内だけでなく広く海外に目を向けた学生募集活動を展開し、国内外から学生確保を目指す。また、大学院や通信教育による社会人の受け入れも引き続き積極的に行っていく。

今年度は、九州医療科学大学において社会人を対象としたオープン・アカデミーを開設し、オンライン講座（全36講義）の受講者数は367名、講師との対面形式で開催された東京での特別講義（1日間）の受講者数は191名、九州医療科学大学での講義や高千穂を巡る宮崎短期ツアー（3日間）の受講者は109名であった。

また、令和8年度にはオンライン講座（全36講義）、東京での特別講義（1日間）、姉妹校である吉備国際大学南あわじ志知キャンパス農学部での短期ツアー（2日間）の開催を計画している。

### (3) 採算性の検証と学部学科等の再編

学生募集状況や将来性などを分析し、より魅力ある学部学科への再編や学生定員

の見直しを行った。

具体的には、令和8年度に向けて、吉備国際大学農学部に新たにアクアグリーンフィールド学科の開設準備を進めるとともに、地域創成農学科を農業資源生物学科に名称変更し、海洋水産生物学科とあわせて3学科体制となるよう計画を進めた。

#### (4) 地域連携の推進と外部資金の獲得

本学園は、地域と密接に関わりながら運営しており、地域の産業界や地方公共団体と連携して公開講座や連携事業を実施している。今後も地域を支える人材育成を行うとともに、地域社会の知の拠点として、産業界や地方公共団体と積極的に連携を図っていく。併せて、研究の高度化や地域社会への貢献を推進するために、文部科学省等の補助金やその他の外部資金の積極的な獲得を目指す。

#### (5) 法人のガバナンス強化

本学園が社会の理解と支援を得て発展し続けるために、引き続き法令遵守と自律的なガバナンス確保に努めるとともに、情報公開を積極的に行うなど経営の透明性向上に努める。

私立学校法改正に伴い新寄附行為のもとで円滑に意思決定が行えるよう理事会、評議員会などの管理運営機関を適切に運営し、法人ガバナンスを確立する。

#### (6) 財務の改善

学納金収入が減少するなかで、今後も良好な教育環境と教育研究資金を確保していくため、また、さらなる飛躍を目指すためには経営基盤の安定が不可欠であることから、学生確保による学納金収入の増加と、人件費や経費などの支出抑制を徹底し収支の改善を図る。

#### (7) 学園50周年記念事業の継続

学園50周年記念事業としてボランティアセンターで実施している「デリシャスフードキッズクラブ」及び「ジョイフルキッズクラブ」の活動の一層の充実を図る。

#### (8) 収益事業の強化

賃貸マンション「ラ・エスペランサ」の入居率100%を維持するとともに、サービス充実に努める。

⇒ 本学園は、令和7年度においても、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念をすべての基軸として、学園運営および各設置校における教育研究活動に取り組んだ。

教育面では、建学の理念の実現に向け、学生一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行い、国家試験合格率の向上をはじめ、専門的知識と豊かな人間性を備えた人材を社会に輩出できるよう努めた。その結果、吉備国際大学では作業療法士、九州医療科学大学では薬剤師、臨床検査技師、愛玩動物看護師、きゆう師および介護福祉士の各国家試験において合格率100%

を達成した。

また、学修成果の可視化や学修者本位の教育への転換については、各大学の教育イノベーション課を中心に取り組みを推進した。

学生募集においては、各設置校のブランディングに基づく広報活動を展開するとともに、より魅力ある学部・学科の再編を含めた募集戦略により学生募集に取り組んだ。開設3年目となる吉備国際大学農学部海洋水産生物学科においては、設置計画に基づき順調に教育研究活動を推進するとともに、令和8年度の学生募集においても定員を上回る入学生を確保した。

さらに、令和8年度に向けて、吉備国際大学農学部アクアグリーンフィールド学科を開設するとともに、地域創成農学科を農業資源生物学科へと名称変更し、海洋水産生物学科とあわせて3学科体制とするよう文部科学省に設置届出等を行った。また、新学科の開設および農学部における教育・研究・地域貢献を推進するため、(株)モンベルとアウトドア活動を通じた地域活性化および教育・人材育成を目的とした包括連携協定を締結し、また、南あわじ市丸山漁港における「淡路島まるやま水族館(仮称)」の設置等を含む活用推進計画に取り組む(株)まるやまとパートナーシップを締結した。

九州医療科学大学においては、社会人を対象としたオープンアカデミーを開講し367名が受講するなど、大学の魅力向上に努めた。

施設設備面では、吉備国際大学開学35周年記念事業として高梁キャンパスに整備した学生会館「KIUB(キューブ)」の運用を開始したほか、南あわじ志知キャンパスにおいては、農学部のアクアリウム水槽を展示する「吉備アクアパーク」を整備するなど、学修環境の充実を図った。

外国人留学生の募集については、引き続き広く海外に目を向け、積極的な留学生の受け入れを行った。今年度は特に、ミャンマーからの留学生の受け入れを開始し、吉備国際大学留学生別科の秋季入学生として17名が入学した。

地域連携に関しては、地域を支える人材育成を行うとともに、地域社会における知の拠点として、地域の産業界や地方公共団体と積極的に連携を図り、また、研究の高度化や地域貢献を推進するため、文部科学省等の補助金やその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、九州医療科学大学では文部科学省改革総合支援事業に3年連続で選定された。

主な行事として、九州医療科学大学において、日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、評価結果「適格」となった。

法人運営に関しては、学園が社会の理解と支援を得て発展し続けるために、引き続きガバナンス強化に努めるとともに、情報公開を積極的に行い、経営の透明性向上に努めた。今年度は特に、私立学校法の改正に伴い、改正私学法及び新寄附行為に基づき理事、監事、評議員及び会計監査人を選任し、新体制の下で理事会、評議員会等の管理運営機関を適切に運営した。

ボランティアセンターの活動においては、学園50周年記念事業である順正デリシャスフードキッズクラブを通じ、岡山県および宮崎県の生活困窮世帯に対して、令和8年3月末現在で1,279世帯へ食料支援を実施した。本事業の実施にあたっては、カバヤ食品(株)、コカ・

コーラボトラーズジャパン（株）、蜂谷工業（株）、（株）フジ、（株）ハローズ、（株）天満屋ストア、（株）イズミゆめタウン高梁、（株）フジワラテクノアート、高梁市役所、高梁市社会福祉協議会、高梁ロータリークラブをはじめとする多くの関係機関・企業から多大な支援をいただいた。

収益事業については、賃貸マンション「ラ・エスペランサ」において、26 部屋が満室となっている。

最後に、学園の海外事業展開のため、9月にウズベキスタン共和国タシケント市に学園100%出資子会社「JUNSEI TASHKENT」を設立した。12月には、東京で開催された「中央アジア+日本」サミットにあわせて、ウズベキスタン高等教育・科学・イノベーション省のシャリポフ大臣と学術協力協定を締結し、ハイレベル円卓会議において披露した。さらに、タシケント市内に大学用地 1.7ヘクタールを取得し、大学等の設置に向けた準備を進めている。

教育研究分野における詳細な取り組みについては、各設置校の報告に記載のとおりである。

## II. 法人の概要

### 1. 基本情報

(令和7年5月1日現在)

主たる事業所の住所等

	住所	電話 / FAX	ホームページ
学校法人順正学園	〒700-0022 岡山市北区岩田町 2-5	Tel 086-231-3517 Fax 086-231-3518	<a href="https://junsei.ac.jp/edu/">https://junsei.ac.jp/edu/</a>
吉備国際大学	〒716-8508 高梁市伊賀町 8	Tel 0866-22-9454 Fax 0866-22-7560	<a href="https://kiui.jp">https://kiui.jp</a>
吉備国際大学 南あわじ志知キャンパス	〒656-0484 南あわじ市志知佐礼尾 370-1	Tel 0799-42-4700 Fax 0799-42-4701	
吉備国際大学 岡山キャンパス	〒700-0931 岡山市北区奥田西町 5-5	Tel 086-207-2911 Fax 086-207-2912	
九州医療科学大学	〒882-8508 延岡市吉野町 1714-1	Tel 0982-23-5555 Fax 0982-23-5530	<a href="https://www.phoenix.ac.jp">https://www.phoenix.ac.jp</a>
九州医療科学大学専門学校	〒880-0867 宮崎市瀬頭 2-1-10	Tel 0985-29-5300 Fax 0985-29-5755	<a href="https://www.kyusen.ac.jp">https://www.kyusen.ac.jp</a>

設置する学校・学部・学科等

吉備国際大学 大学院 社会学研究科  
保健科学研究科  
心理学研究科  
地域創成農学研究科  
(通信制) 連合国際協力研究科  
(通信制) 心理学研究科  
(通信制) 保健科学研究科

社会科学部 経営社会学科  
スポーツ社会学科

看護学部 看護学科  
理学療法学科  
作業療法学科

心理学部 心理学科

農学部 地域創成農学科  
醸造学科 (令和7年度末廃止)  
海洋水産生物学科

外国語学部 外国学科

アニメーション学部 アニメーション学科

人間科学部 人間科学科 心理学専攻  
 理学療法学専攻  
 作業療法学専攻  
 通信教育部 心理学部 子ども発達教育学科（令和7年度末廃止）  
 留学生別科

九州医療科学大学 大学院 医療薬学研究科  
 （通信制）社会福祉学研究科  
 （通信制）保健医療学研究科  
 社会福祉学部 臨床福祉学科  
 スポーツ健康福祉学科  
 薬学部 薬学科  
 動物生命薬科学科  
 生命医科学部 生命医科学科  
 臨床心理学部 臨床心理学科  
 通信教育部 社会福祉学部 臨床福祉学科  
 スポーツ健康福祉学科

九州医療科学大学専門学校 医療専門課程 看護学科

## 2. 役員の概要

理事・監事 定数 理事9～13名、監事2名 (令和7年5月1日現在)

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別
理事長	加計 勇樹	H23.5.14	常勤
専務理事	加計 美也子	S59.6.1	常勤
理事	中瀬 克己	R7.4.1	常勤
理事	池ノ上 克	R6.4.1	常勤
理事	中永 洋子	H6.6.1	非常勤（学外）
理事	角南 篤	H24.6.1	非常勤（学外）
理事	飛島 章	H28.6.1	非常勤（学外）
理事	黒住 宗晴	H28.6.1	非常勤（学外）
理事	川端 英男	R2.6.1	非常勤（学外）

理事	大橋 宗志	R2.6.1	非常勤（学外）
理事	佐藤 兼郎	R2.6.1	非常勤（学外）
監事	讃岐 洋子	R6.6.1	常勤（学外）
監事	山中 幸平	H6.6.16	非常勤（学外）

理事・監事 定数 理事5～8名、監事2名 (令和7年6月13日変更)

役職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別
理事長	加計 勇樹	R7.6.13	常勤
専務理事	加計 美也子	R7.6.13	常勤
理事	中瀬 克己	R7.4.1	常勤
理事	池ノ上 克	R7.6.13	常勤
理事	角南 篤	R7.6.13	非常勤（学外）
理事	佐藤 兼郎	R7.6.13	非常勤（学外）
監事	讃岐 洋子	R7.6.13	常勤（学外）
監事	山中 幸平	R7.6.13	非常勤（学外）

私学法の改正に伴う新寄附行為のもと、令和7年度第1回・第2回評議員会において新役員を選任。

#### 役員賠償責任保険契約の状況

令和2年度から私大協役員賠償責任保険制度に加入しており、令和7年度においても、理事会決議により加入している。

保険種類 役員賠償責任保険

契約者 日本私立大学協会

記名法人 学校法人順正学園

被保険者 個人被保険者

記名法人

理事・監事、評議員、管理職従業員、退任役員

学校法人順正学園

補償内容 個人被保険者に関する補償

記名法人に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

法人内調査費用、

第三者委員会設置・活動費用等

保険期間中総支払限度額 1億円

### 3. 評議員の概要

評議員 定数 27～32名

(令和7年5月1日現在)

氏名	就任年月日	氏名	就任年月日
加計 勇樹	H10.6.1	柴田 良一	R4.2.24
加計 美也子	H27.6.1	清水 光二	H28.6.1
相野 公孝	R4.4.1	正野 知基	H29.6.1
井勝 久喜	H25.6.1	園田 徹	R2.4.1
池本 貞子	S62.6.1	田尾 瞳	H29.6.1
池脇 信直	H31.4.1	畝 伊智朗	H30.4.1
後迫 和子	H26.6.1	河村 顕治	R4.12.21
大原 秀行	H26.1.19	兒玉 修	R5.6.1
加計 咲也子	R2.4.1	中角 祐治	H30.5.29
倉内 紀子	H26.6.1	中塚 敬	H29.6.1
栗田 喜勝	H28.6.1	林原 輝明	R2.12.18
黒川 昌彦	H30.4.1	中瀬 克己	R5.10.1
佐藤 兼郎	R2.4.1	山本 隆一	H20.1.19
塩見 優子	H21.6.1		

評議員 定数 6～9名

(令和7年6月13日変更)

役職名	氏名	就任年月日	選任要件
評議員	園田 徹	R7.6.13	法人内職員
評議員	加計 咲也子	R7.6.13	法人内職員
評議員	中塚 敬	R7.6.13	卒業生
評議員	田尾 瞳	R7.6.13	卒業生
評議員	川端 英男	R7.6.13	学識経験者
評議員	中永 洋子	R7.6.13	学識経験者
評議員	林原 輝明	R7.6.13	学識経験者

私学法の改正に伴う新寄附行為のもと、令和7年度第2回評議員会において新評議員を選任。

#### 4. 専任教職員

(令和7年5月1日現在)

	教員数	職員数	備考
法人本部	—	7	出向者等含む
吉備国際大学	103	57	
九州医療科学大学	91	37	
九州医療科学大学専門学校	11	5	
合計	205	106	

## 5. 財務の概要

財務の概要

(1) 決算の概要

令和7年度(2025年度)の学校法人順正学園の財務状況について報告いたします。

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位 円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	26,273,326,422	25,525,113,814	25,556,242,221	25,157,649,609	27,556,698,813
流動資産	15,489,800,666	15,398,748,707	14,504,592,649	13,570,309,620	9,694,380,221
資産の部合計	41,763,127,088	40,923,862,521	40,060,834,870	38,727,959,229	37,251,079,034
固定負債	1,635,637,309	1,636,477,679	1,685,437,393	1,690,877,879	1,734,676,948
流動負債	744,940,572	762,625,854	691,366,949	734,808,096	781,084,866
負債の部合計	2,380,577,881	2,399,103,533	2,376,804,342	2,425,685,975	2,515,761,814
基本金	41,383,534,126	40,983,152,438	41,442,983,425	41,563,084,486	41,507,243,478
繰越収支差額	△概,000,984,919	△概,458,393,450	△概,758,952,897	△概,260,811,232	△概,771,926,258
純資産の部合計	39,382,549,207	38,524,758,988	37,684,030,528	36,302,273,254	34,735,317,220
負債及び純資産の合計	41,763,127,088	40,923,862,521	40,060,834,870	38,727,959,229	37,251,079,034

前年度より資産の部では、固定資産が23.9億円増加、流動資産が38.7億円減少し「資産の部合計」で14.7億円減少、負債の部では、固定負債が4380万円、流動負債が4630万円増加し、「負債の部合計」で9000万円の増加となった。「純資産の部」で翌年度繰越収支差額が15.1億円のマイナスとなり、「純資産の部合計」で15.7億円の減少減少となり「負債及び純資産の部合計」で14.7億円減少となった。

イ) 財務比率の経年比較(5カ年推移)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運用資産余裕比率	3.4年	3.5年	3.5年	3.4年	2.6年
流動比率	2079.3%	2019.2%	2098.0%	1846.8%	1241.1%
総負債比率	5.7%	5.9%	5.9%	6.7%	6.8%
前受金保有率	2597.6%	2490.0%	2702.0%	2243.3%	1700.9%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
積立率比率	94.3%	92.5%	87.3%	81.8%	64.7%

②事業活動収支計算書類関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比率

(単位 円)

科目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒納付金	4,700,937,783	4,237,554,299	3,969,060,269	3,597,485,284	3,499,156,251
		手数料	45,873,568	44,914,330	32,502,480	33,340,680	32,398,000
		寄付金	17,029,127	31,639,627	23,019,226	16,999,830	20,949,414
		経常費補助金	695,188,523	718,035,060	636,623,164	642,123,615	879,012,757
		付随事業収入	75,127,313	44,244,527	24,468,889	31,852,889	84,669,431
		雑収入	289,074,783	427,483,794	290,104,502	271,092,463	352,811,924
		事業活動収入計	5,823,231,097	5,503,871,637	4,975,778,530	4,592,894,761	4,868,997,777
	事業活動支出の部	人件費	3,725,157,468	3,620,071,896	3,333,552,156	3,293,716,922	3,499,291,718
		教育研究経費	2,307,453,974	2,209,087,691	2,233,288,374	2,245,866,115	2,391,747,000
		管理経費	454,899,363	508,718,684	506,649,538	458,947,520	485,442,870
		徴収不能額	4,433,228	5,108,870	5,065,188	615,000	1,230,000
		教育活動支出計	6,491,944,033	6,342,987,141	6,078,555,256	5,999,145,557	6,377,711,588
	教育活動収支差額		△概68,712,936	△概39,115,504	△概,102,776,726	△概,406,250,796	△概,508,713,811
	教育活動外収支	事業の活動収入	受取利息・配当金	10,664,378	3,392,697	6,034,935	14,666,450
その他の教育活動外収入			6,380,313	210,220	347,906	74,149	235,428
教育活動外収入計			17,044,691	3,602,917	6,382,841	14,740,599	40,634,849
事業の活動支出		借入金利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	1,705,593	0	27,557	46,669	34,682
		教育活動外支出計	1,705,593	0	27,557	46,669	34,682
教育活動外収支差額		15,339,098	3,602,917	6,355,284	14,693,930	40,600,167	
経常収支差額		△概53,373,838	△概35,512,587	△概,096,421,442	△概,391,556,866	△概,468,113,644	
特別収支	収入の活動の部	資産売却差額	126,452,851	0	0	4,759,997	499,999
		その他の特別収入	58,254,445	27,518,928	266,799,586	36,328,337	13,864,099
		特別収入計	184,707,296	27,518,928	266,799,586	41,088,334	14,364,098
	支出の活動の部	資産処分差額	53,647,666	49,796,560	11,106,604	31,288,742	35,626,638
		その他の特別支出	0	0	0	0	77,579,850
		特別支出計	53,647,666	49,796,560	11,106,604	31,288,742	113,206,488
特別収支差額		131,059,630	△概2,277,632	255,692,982	9,799,592	△概8,842,390	
基本金組入前当年度収支差額		△概22,314,208	△概57,790,219	△概40,728,460	△概,381,757,274	△概,566,956,034	

基本金組入額	354,805,537	△概0,911,832	△概73,872,997	△概09,591,049	△概91,563,061
当年度収支差額	△概67,508,671	△概68,702,051	△概,714,601,457	△概,591,348,323	△概,858,519,095
前年度繰越収支差額	△概,833,476,248	△概,000,984,919	△概,458,393,450	△概,758,952,897	△概,260,811,232
基本金取崩額		411,293,520	414,042,010	89,489,988	347,404,069
翌年度繰越収支差額	△概,000,984,919	△概,458,393,450	△概,758,952,897	△概,260,811,232	△概,771,926,258

事業活動収入計	6,024,983,084	5,534,993,482	5,248,960,957	4,648,723,694	4,923,996,724
事業活動支出計	6,547,297,292	6,392,783,701	6,089,689,417	6,030,480,968	6,490,952,758

事業活動収支計算書は、経常的な「教育活動収支」と「教育活動外収支」の2つに区分し、それぞれの収支差額を表示し、2つの収支差額を合わせて「経常収支差額」として表示している。それ以外の臨時的な収支については「特別収支」により表示している。この経常収支差額と特別収支差額の合計が「基本金組入前当年度収支差額」となる。

#### 教育活動収支

収入の部では、学生生徒納付金収入が9833万円の減少となったが、経常費補助金、付随事業収入などの増加により2.7億円増加した。支出の部では、人件費、教育研究経費、管理経費すべてが前年より増加し、3.8億円の増加となった。特に修学支援奨学金が2.29億円増加と大きく占めている。教育活動収支差額は△15億円と支出超過となっている。

#### 教育活動外収支

収入の部では、受取利息・配当金が2500万円増加し、収入の全体も2590万円の増加となり、教育活動外収支差額も2590万円の増加した。

#### 経常収支差額

△14.7億円となっており、繰越収支差額が△67.7億円となっている。

#### イ) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	63.8%	65.7%	66.9%	71.5%	71.3%
教育研究経費比率	39.5%	40.1%	44.8%	48.7%	48.7%
管理経費比率	7.8%	9.2%	10.2%	10.4%	9.9%
事業活動収支差額比率	-8.7%	-15.5%	-16.0%	-29.7%	-31.9%
学生生徒納付金比率	80.5%	76.9%	79.7%	78.1%	71.3%
経常収支差額比率	-11.2%	-15.2%	-22.0%	-30.2%	-29.9%

#### ③資金収支計算書関係

##### ア) 資金収支計算書の状況と経年比率

(単位 円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒納付金収入	4,700,937,783	4,237,554,299	3,969,060,269	3,597,485,284	3,499,156,251
手数料収入	45,873,568	44,914,330	32,502,480	33,340,680	32,398,000
寄付金収入	15,859,010	31,945,354	20,559,239	14,975,438	18,759,446
補助金収入	741,668,523	733,307,060	666,390,164	664,671,615	879,012,757
資産売却収入	188,372,000	60,000,000	666,390,164	7,000,000	9,046,569
付随事業・収益事業収入	75,127,313	44,244,527	24,468,889	31,852,889	84,669,431
受取利息・配当金収入	10,664,378	3,392,697	6,034,935	14,666,450	40,399,421
雑収入	209,970,903	368,587,265	197,673,182	189,484,435	263,926,254
借入金収入	0	0	0	0	0
前受金収入	583,527,860	604,430,725	528,070,043	595,952,022	550,174,735
その他の収入	1,586,028,525	460,793,402	637,372,314	284,828,482	274,772,882
資金収入調整勘定	△概48,224,942	△概09,751,428	△概04,009,106	△概97,586,736	△概20,440,062
前年度繰越支払資金	13,972,709,349	15,157,900,889	15,050,158,057	14,268,534,950	13,368,887,829
収入の部合計	21,182,514,270	20,837,319,120	20,328,280,466	19,005,205,509	18,100,763,513

支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	3,610,529,409	3,562,943,659	3,228,100,537	3,182,414,396	3,367,993,345
教育研究経費支出	1,629,145,154	1,533,268,019	1,597,424,782	1,592,904,609	1,791,053,968
管理経費支出	389,652,599	438,759,622	412,632,349	421,322,423	427,449,962
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	183,470,700	102,300,000	572,336,842	204,668,000	195,389,700
設備関係支出	71,502,492	70,392,670	162,907,038	135,912,898	80,805,745
資産運用支出	10,000,000	1,200,000	4,500,000	6,050,000	16,569,538
その他の支出	204,814,072	161,866,149	173,773,540	168,729,226	2,950,720,147
資金支出調整勘定	△概4,501,045	△概3,569,056	△概1,929,572	△概5,686,872	△概6,917,032
翌年度繰越支払資金	15,157,900,889	15,050,158,057	14,268,534,950	13,368,887,829	9,357,698,140
支出の部合計	21,182,514,270	20,837,319,120	20,328,280,466	19,005,202,509	18,100,763,513

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 円)

	科目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支	教育活動資金収入計	5,736,532,354	5,442,579,134	4,879,862,544	4,509,128,842	4,777,655,678
	教育活動資金支出計	5,627,621,569	5,534,971,300	5,238,130,111	5,196,594,759	5,586,462,593
	差引	108,910,785	△概2,392,166	△概58,267,567	△概87,465,917	△概08,806,915
	調整勘定等	△概3,544,040	△概2,248,846	98,790,167	78,954,160	△概86,941,830
	教育活動資金収支差額	55,366,745	△概34,641,012	△概59,477,400	△概08,511,757	△概95,748,745
施設設備等活動による資金収支	施設設備等活動資金収入計	290,892,433	153,993,481	259,749,973	29,604,350	9,077,602
	施設設備等活動資金支出計	254,973,192	172,692,670	735,243,880	340,580,898	276,195,445
	差引	35,919,241	△概8,699,189	△概75,493,907	△概10,976,548	△概67,117,843
	調整勘定等	△概1,429,784	40,383,266	△概6,446,168	12,939,208	20,930,770
	施設設備等活動資金収支差額	4,489,457	21,684,077	△概01,940,075	△概98,037,340	△概46,187,073
小計 (教育活動収支差額+施設設備等活動資金収支差額)	59,856,202	△概12,956,935	△概61,417,475	△概06,549,097	△概241,935,818	
その他の活動による資金収支	その他の活動資金収入	1,238,620,606	95,404,430	93,290,575	100,605,700	147,237,638
	その他の活動資金支出計	111,252,266	97,171,499	112,403,328	92,229,020	2,905,102,925
	差引	1,127,368,340	△概767,069	△概9,112,753	8,376,680	△概757,865,287
	調整勘定等	△概93,002	6,981,172	△概92,879	△概474,704	△概1,388,584
	その他の活動資金収支差額	1,125,335,338	5,214,103	△概0,205,632	6,901,976	△概769,253,871
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	1,185,191,540	△概07,742,832	△概81,623,107	△概99,647,121	△概011,189,689	
前年度繰越支払資金	13,972,709,349	15,157,900,889	15,050,158,057	14,268,534,950	13,368,887,829	
翌年度繰越支払資金	15,157,900,889	15,050,158,057	14,268,534,950	13,368,887,829	9,357,698,140	

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を「教育活動による資金収支」「施設設備等活動による資金収支」「その他の活動」の3つの活動区分別に表示した計算書で、活動ごとの収支状況を表しています。

教育活動資金収支差額は、9.96億円の支出超過、施設設備等活動資金収支差額は2.46億円の支出超過となり、合わせると12.4億円の支出超過となっている。その他の活動による資金収支差額は、28億円の出資金支払い支出があったため、2.77億円の支出超過となった。

収支差額を合わせると、繰越支払資金は93億円となる。

ウ) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率	1.0%	-2.5%	-5.3%	-13.5%	-20.8%

## (2) その他

## ①有価証券の状況

(単位 円)

種類	当年度(令和8年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	-	-	-
株式(注1)	235,574,424	306,060,713	70,486,289
投資信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	235,574,424	306,060,713	70,486,289
時価のない有価証券	59,656,288		
有価証券合計	295,230,712		

(注1)第3号基本金引当特定資産に含まれる有価証券を含めている。

## ②借入金の状況

借入金なし

## ③学校債の状況

学校債なし

## ④収益事業の状況

不動産賃貸業を岡山市北区で行っており、その状況は次のとおりです。

## 貸借対照表

(単位 円)

流動資産	108,657,642
固定資産	192,305,821
資産合計	300,963,463
流動負債	1,734,280
固定負債	11,375,000
負債合計	13,109,280
純資産合計	287,854,183
負債・純資産合計	300,963,463

## 損益計算書

(単位 円)

営業収益	43,219,998
営業費用	32,121,912
営業利益	11,098,086
営業外損益	0
当期純利益	11,098,086

## ⑤関連当事者等との取引の状況

子法人の 名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
株式会社JEI	業務委託・人材派遣・事務用品販売	30,000,000円	100%	図書館の業務委託他 155,637,568円	
JUNSEI TASHKENT LLC	ウズベキスタン共和国での大学運営	2,807,000,000円	100%	出資 2,807,000,000円	理事長が社長を兼務
医療法人順正会	クリニック、介護福祉施設等の運営に関して支援援助	20,000,000円	-	校医の委託、健康診断、施設等の運営に関する支援援助 4,918,530円	

### Ⅲ. 大学の概要

各設置校の入学者・学生数等の状況

#### 【吉備国際大学】

学部

学部	学科・専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生
社会科学部	経営社会学科	100	45	404	245
	スポーツ社会学科	80	59	320	228
計		180	104	724	473
看護学部	看護学科	60	30	260	54
計		60	30	260	54
保健医療福祉学部	看護学科	-	-	-	56
	理学療法学科	-	-	80	62
	作業療法学科	-	-	80	24
計		0	0	160	142
心理学部	心理学科	-	-	80	70
計		0	0	80	70
農学部	地域創成農学科	50	32	204	118
	醸造学科	-	-	40	13
	海洋水産生物学科	40	48	120	133
計		90	80	364	264
外国語学部	外国学科	50	23	200	131
計		50	23	200	131
アニメーション学部	アニメーション学科	40	23	160	125
計		40	23	160	125
人間科学部	人間科学科心理学専攻	40	39	80	70
	人間科学科理学療法専攻	40	47	80	75
	人間科学科作業療法専攻	40	18	80	30
計		120	104	240	175
学部計		540	364	2,188	1,434
通信教育部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生
心理学部	子ども発達教育学科	-	-	-	2

大学院

通学制	研究科	専攻	入学定員		入学者数		収容定員		在籍学生	
			博士(前期)課程	博士(後期)課程	博士(前期)課程	博士(後期)課程	博士(前期)課程	博士(後期)課程	博士(前期)課程	博士(後期)課程
	社会学研究科	社会学専攻	12	4	2	1	24	12	11	1
	保健科学研究科	保健科学専攻	6	3	0	3	12	9	1	7
	心理学研究科	心理学専攻	15	2	10	0	30	6	16	0
	地域創成農学研究科	地域創成農学専攻	4	2	1	0	8	6	1	0
計			37	11	13	4	74	33	29	8

通信制	研究科	専攻	入学定員		入学者数		収容定員		在籍学生	
			修士課程	博士(後期)課程	修士課程	博士(後期)課程	修士課程	博士(後期)課程	修士課程	博士(後期)課程
	連合国際協力研究科	国際協力専攻	7	-	3	-	14	-	10	-
	心理学研究科	心理学専攻	-	3	-	0	-	9	-	3
	保健科学研究科	理学療法・作業療法専攻	15	-	6	-	30	-	17	-
		理学療法専攻	-	-	-	-	-	-	1	-
通信制大学院計			22	3	9	0	44	9	28	3

## 【九州医療科学大学】

学部

通学制	学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生
社会福祉学部	スポーツ健康福祉学科	80	68	244	192
	臨床福祉学科	-	-	84	48
計		80	68	328	240
薬学部	薬学科	100	50	624	307
	動物生命薬科学科	40	34	160	103
計		140	84	784	410
生命医科学部	生命医科学科	40	23	240	142
計		40	23	240	142
臨床心理学部	臨床心理学科	40	36	160	107
計		40	36	160	107
学部計		300	211	1,512	899

通信教育部	学科	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生
社会福祉学部	スポーツ健康福祉学科	300	66	490	192
	臨床福祉学科	-	-	954	48
計		300	66	1,444	240

大学院

通学制	研究科	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生
			博士課程	博士課程	博士課程	博士課程
	医療薬学研究科	医療薬学専攻	4	1	16	4
計			4	1	16	4

通信制		入学定員		入学者数		収容定員		在籍学生	
研究科	専攻	博士(前期)課程	博士(後期)課程	博士(前期)課程	博士(後期)課程	博士(前期)課程	博士(後期)課程	博士(前期)課程	博士(後期)課程
社会福祉学研究科	社会福祉学専攻	7	5	7	1	14	15	2	14
保健医療学研究科	保健医療学専攻	7	3	7	0	14	9	3	5
通信制大学院計		14	8	14	1	28	24	5	19

## 【九州医療科学大学専門学校】

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生
専門課程	看護学科	60	23	180	173
計		60	23	180	173

設置校別国家試験合格率（新卒者）

学 校 名	試 験 名	令和7年度				
		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
吉備国際大学	看護師	24人	21人	3人	87.5%	94.1%
	保健師	15人	11人	4人	73.3%	89.9%
	理学療法士	27人	25人	2人	92.6%	94.9%
	作業療法士	8人	8人	0人	100.0%	96.6%
	公認心理師	4人	1人	3人	25.0%	60.0%
九州医療科学大学	社会福祉士	25人	18人	7人	72.0%	78.4%
	社会福祉士（通信制）	57人	43人	14人	75.4%	78.4%
	精神保健福祉士	5人	3人	2人	60.0%	85.4%
	介護福祉士	1人	1人	0人	100.0%	68.1%
	はり師	9人	8人	1人	88.9%	77.2%
	きゆう師	9人	9人	0人	100.0%	80.9%
	言語聴覚士	8人	4人	4人	50.0%	85.9%
	臨床工学技士	7人	5人	2人	71.4%	65.7%
	薬剤師	30人	30人	0人	100.0%	86.3%
	愛玩動物看護師	23人	23人	0人	100.0%	90.5%
	臨床検査技師	30人	30人	0人	100.0%	93.3%
九州医療科学大学 専門学校	看護師	45人	44人	1人	97.8%	94.1%

## IV. 各事業の概要

### 1. 設置関係

- (1) 吉備国際大学農学部アクアグリーンフィールド学科開設（令和8年4月）
- (2) 吉備国際大学農学部地域創成農学科から農学部農業資源生物学科へ名称変更（令和8年4月）
- (3) 吉備国際大学学部学科入学定員変更（令和8年4月）
  - ・社会科学部経営社会学科入学定員を100名から80名に変更
  - ・社会科学部スポーツ社会学科入学定員を80名から70名に変更
  - ・看護学部看護学科入学定員を60名から40名に変更
  - ・農学部地域創成農学科入学定員を50名から40名に変更
  - ・アニメーション学部アニメーション学科入学定員を40名から50名に変更するとともに、新たに2年次編入学定員10名、3年次編入学定員5名を設定
- (4) 九州医療科学大学専門学校看護学科入学定員を60名から40名に変更（令和8年4月）
- (5) 吉備国際大学、九州医療科学大学、九州医療科学大学専門学校における教育・研究の更なる充実を図る。
- (6) ウズベキスタン共和国への新大学設立並びにウズベキスタン共和国への吉備国際大学新キャンパス開設の準備を進める。

### 2. 入試広報活動の計画

◎教育力など学園の良き財産を積極的に前に出す広報を行う。

1. Webを活用した広報強化
2. 露出度のアップ
3. ホームページの充実
4. オープンキャンパスの充実
5. 海外支局との連携強化

◎学生募集戦略

建学の理念を全面に打ち出し、各設置校の教育力の高さを強調した広報を行う。また、学園全体で無駄のない効率的な広報を行う。海外募集においても積極的に広報を行う。

目標

◎入試

入学者選抜において、受付・入試実施・発表・入学手続きまでの入試業務を各設置校と連携し合理化を行うと共に、ミスのないようにする。

令和7年度秋季入学は、昨年度と同様に留学生別科、留学生国外からの募集を行った。今年度より吉備国際大学と九州医療科学大学においてはweb出願システムを新規業

者にて構築し、問題なく実施することができた。なお、令和8年度春季入学は、国外・国内ともに問題なく実施しており、9月以降は、総合型選抜Ⅰ期を実施した。11月以降は学校推薦選抜型、1月以降は一般選抜、大学入学共通テストを行い、問題なく全ての入試を実施した。

## ◎広報

各設置校のブランドビジョンを柱に情報配信を行い、通学・通信制の学部・学科・研究科の定員 充足率100% を目指し、募集を行う。留学生募集も強化する。以下のとおり入試・広報活動を行う。

○学部・学科等の改編に伴うPR強化

○WEB広報の強化

3設置校（吉備国際大学、九州医療科学大学、九州医療科学大学専門学校）について、HPにより最新入試を掲示し、また各種奨学金制度や学科・専攻のリーフレットを作成し、高校訪問、校内ガイダンス、5月から8月かけてオープンキャンパス・キャンパス見学会時にPRを行った。

本学の知名度アップと奨学金制度や学部・学科改編等告知、オープンキャンパスの告知を目的として、リターゲティング広告やリスティング広告により情報配信を行った。

また、一般選抜入試の志願者獲得を目的とした広告発信を行った。

○高校生対象のガイダンスへの積極的な参加

高校生対象ガイダンスの参加高校・会場を昨年より増加したことにより、接触者数も増えた。

○資料請求者へのDM

○オープンキャンパスや学内進学説明会の強化

昨年度と同様に学生主体のオープンキャンパスを実施した。

○ホームページや大学案内等でブランドビジョンやタグライン、大学の三つのポリシーを積極的に周知

各設置校で最新情報を発信した。

○SNSを積極的に活用し、ニュースや多様な動画等の配信

各学科・専攻から選出された学生広報スタッフの協力により、公式 Instagram の投稿が増え、最新の情報を配信した。

○関連校（教育提携校・高大連携校）との連携事業の強化

大学見学や出張講義等を実施した。また、今年度新たに宮崎学園中学・高等学校（宮崎県）、希望高等学園(岡山県)と高大連携協定、教育協定を締結し連携した。

○奨学金制度等の減免措置の周知

奨学金制度や特待生制度のリーフレットを作成し、高校訪問や校内ガイダンス、オープンキャンパス等に配布した。

### 3. ボランティアセンター

#### (1) 吉備国際大学

##### ①子ども支援セクション

##### 【順正デリシャスフードキッズ (DFK) クラブ】

##### ○順正DFKクラブによる食料支援

- ・R8.3月末現在、121世帯が利用中。同時期までに、順正学園が購入した食料品（計4,689.966kg、計3,987,760円）をはじめ、企業・団体等から寄贈された食料品（計10,182.87kg、1kgあたり600円で換算～6,109,722円相当）等を、計延べ1,279世帯に対して、計12回、計14,298.2kgを配送した。
- ・月1回、第3木曜の配送に合わせ、第1～2、4週にかけて、当センターの学生スタッフをはじめ、一般市民（高梁ロータリークラブ等）もボランティアとして参加している。
- ・フードドライブは、1回目を高梁市内（10/8～10/26）、2回目を総社市内（R8/2/27～3/27）で実施。その他、県内スーパーで定期的に実施中。
- ・ハローズ財団から100,000円、全国フードバンク推進協議会から381,000円、農林水産省（民間団体経由）から2,950,000円、岡山西ロータリークラブ青少年健全育成基金から80,000円、計3,511,000円の助成を受けた。
- ・食品現物の助成は、農林水産省（民間団体経由）からR7年度分（R8/5月まで）として計6回、3,600kgの政府備蓄米の無償交付を受けた。
- ・賛助寄付金として、法人・団体7,301,751円（利息含む）、個人582,020円、計7,883,771円を頂戴している。

##### ②災害復興支援セクション

##### ○災害ボランティア研修会・セミナー等の参加・開催

##### ○災害ボランティアセンターの設置及び、同センター運営訓練等の参加・開催

- ・「明日災害が起きても動ける」ネットワークへ対話の始まりシンポジウム（7/4、岡山大学鹿田キャンパス）
- ・JEI主催による参加型防災イベント「備える」（7/5、吉備国際大学国際交流会館）に参加
- ・高梁市社会福祉協議会主催による災害ボランティア養成講座（7/31、高梁総合福祉センター）に参加。
- ・高梁市社会福祉協議会主催による災害時の被災者支援を考える研修会（8/30、高梁総合福祉センター）及び訓練（11/8、同）に参加。

##### ③地域貢献セクション

##### ○高梁市、地元住民等の要請に応えたボランティア活動の実施（サロン開催等）

- ・備中高梁町家通りのひな祭り（4/6）、「ひまわり号」尾道の旅（5/25）、高梁市「わくわく子どもフェスタ 21」（6/14）、薬物乱用防止キャンペーン（6/23）、高梁市栄町商店街土曜夜市&カレーフェスタ（7/12）、高倉地域3世代交流スポーツ大会（7/27）、夏休み宿題応援講座「おちあいぱれっと」（8/6）、井谷ふれあい

秋祭り（11/1）、おかやまマラソン 2025（11/9）、有漢セミナープラザ感謝祭（11/16）、松山城清掃活動（11/29）、川上町高山市地区とんど祭り（R8/1/18）、そうじゃ吉備路マラソン（R8/2/22）

- ・停滞した地域の雰囲気盛り上げる目的で、学生スタッフが地域住民や高齢者、子どもたちと一緒に交流するサロン活動を開催。R7年度は、主に学童保育や地域イベントに出向き、児童を対象とした不審者注意の防犯寸劇を披露するなどして交流を図った（8/26～成羽学童保育、11/16～有漢セミナープラザ感謝祭、12/7～美作大学防犯・防災フェスティバル）。

#### ○学生スタッフによるボランティアワークショップの開催

- ・一般学生に向けたボランティア活動の広報啓発のため、学生スタッフが独自に企画・発案した学内向けワークショップ「わくわく！ボラわーく！」を開催（7/9、12/22、学生会館 KIUB）。
- ・当センターと岡山県ボランティア NPO 活動支援センター（ゆうあいセンター）主催による「大学ボランティアセンター交流会」を開催（10/25、学生会館 KIUB）。当センターをはじめ、県内のボランティアセンター（岡山理科大、美作大、岡山県立大）が集結し、大谷大学講師によるボランティア講演や、ポスターセッション、ワークショップを通じて交流を深めた。
- ・学生スタッフが年間活動のまとめと、ボランティアに関する学びを得るため、独自に企画・発案し、実施するボランティアワークショップ。R7年度は R8/1/17、県内他大学（岡山理科大、美作大）のボランティアセンター学生スタッフ、高梁市内の高校生を交えて開催した。

#### ○学生スタッフによる手作り遊び教室の開催

- ・高梁市栄町商店街の空き店舗を利用した「手作り遊び教室」を開催。毎月第3土曜日、学生スタッフが考案した工作で、小学生以下の子どもたちに作り方を指導した（R7年度の定期開催日～4/26、6/21、7/12、9/20、10/18、11/15、12/20、R8/1/24、2.21の計9回）。
- ・上記以外にも、市内外の各所に出向く「出張！手作り遊び教室」を開催している（4/6～備中高梁町家通りのひな祭り、6/14～「わくわく子どもフェスタ 21」、8/8～有漢学童保育、8/26～成羽学童保育、11/16～有漢セミナープラザ感謝祭、12/7～美作大学防犯・防災フェスティバル、12/13～高梁市社会福祉協議会親子交流事業、R8/2/11～川上学童保育、2/15～理大の日イベントの計9回）。

#### ○学生スタッフによる児童生徒への登校時の声かけ及び清掃活動（ももパト隊 朝のあいさつ運動）

- ・毎週月曜日、学生スタッフ（吉備国際大学ももパト隊）がシャルム岡山高梁のメンバーと合同で、JR 備中高梁駅前において、小中学生の登校の見守りとあいさつ活動、清掃活動等を実施。

#### ○防犯・交通安全活動等の実施

- ・主に高梁警察署と連携して、高梁市内の防犯や青少年健全育成活動、交通安全に

かかる啓発活動等に、寸劇で使用したヒーロースーツを着用して参加した（4/9～JR 備中高梁駅周辺・ピカピカ 1 年生見守り活動、11/17～JR 備中高梁駅周辺・青少年健全育成キャンペーン街頭啓発活動、12/10～年末犯罪及び交通事故防止パトロール隊出発式）。

- ・島根県松江市で開催された「中国・四国ブロック防犯ボランティアフォーラム」に参加。ももパト隊として取り組んだあいさつ運動や防犯寸劇などの活動について報告した（7/12、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」）。
- ・岡山県警本部で開かれた「夏季高校生防犯ボランティア体験事業」において、ももパト隊兼学生スタッフリーダーが県内高校生約 50 人に対し、防犯ボランティア活動について講話を行った（8/4、岡山県警本部）。
- ・岡山県学生ボランティア連絡会「おにたいじ」総会&学生防犯ボランティアフォーラムに参加（R8/1/13、岡山県警本部）

#### ④障がい学生支援セクション

- ・ノートテイク養成講座（初心者向け）を開催（R8/2/13、学生会館 KIUB）。

#### ⑤その他・活動支援

##### ○関係機関・他団体・他大学との連携・交流

- ・学生スタッフリーダーが高梁市内の高校でボランティア基礎講座を実施（6/19～県立高梁高校、6/20～県立高梁城南高校）。
- ・ゆうあいセンター主催による県内大学ボランティアセンター連絡会に参加（7/23、オンライン）。
- ・順正学園ボランティアセンター及びゆうあいセンター主催「大学ボランティアセンター交流会」を開催（10/25、学生会館 KIUB）。
- ・美作大学主催の防犯・防災フェスティバルに参加（12/7、美作大学）。
- ・吉備国際大学主催「地域連携・地域貢献活動報告会」に参加（R8/2/14、高梁総合文化会館）
- ・岡山理科大学科学ボランティアセンター主催「理大の日イベント」に参加（R8/2/15、人と科学の未来館サイピア）。

##### ○学生スタッフ企画による順正学園ボランティアセンター研修合宿の開催

- ・学生スタッフ夏合宿を、高梁市内の宿泊施設で実施した（9/15.16、神原荘）。

#### ⑥広報・啓発

##### ○広報誌の発行

- ・新入生歓迎特別号、DFK クラブ R6 年度の活動状況報告書を発行。

##### ○その他HP、SNS（facebook、Instagram、YouTube 等）による情報発信

- ・いずれも随時更新中。

(2) 九州医療科学大学・九州医療科学大学専門学校

①子ども支援セクション

【順正デリシャスフードキッズクラブ (DFK)】

引き続きフードドライブを実施する。フードドライブ用のファイバードラムを常設し、提供品の募集を行う。

【順正ジョイフルキッズクラブ (JKC)】

今年度は20回の実施を計画している(昨年度は19回実施<台風中止が1回>)。また、学生ボランティアや教職員ボランティアの確保など実施体制の強化を図り、継続可能な実施体制づくりを行う。

・ボランティア学生、外部講師および食生活改善委員(延岡市)の協力を得て、6月14日の開講式から2月7日の閉講式まで、計画どおりに実施することができた。また、今年度は全20回のうち11回にわたり、社会福祉学部の教員1名がサポートに入るとともに、コーディネーターも1名増員したことで、参加者一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな学習支援を行うことができた。

②地域貢献セクション

ボランティア要請に基づき、地域の各行事に学生を派遣する。

・11月15日(土)、五ヶ瀬川右岸堤防において実施されたコノハナロード百年桜事業のボランティアに、学生40名が参加した。本活動への参加は今年度で4年目となる。地域の方々と共に天下一ひむか桜の根回りへの施肥作業を行うことで、地域貢献の大切さへの理解を深めるとともに、環境意識の向上を図ることができた。

③障がい学生支援セクション

障害者差別解消法に基づき、障がい学生に対する合理的配慮について対応検討する。

・障がいのある学生、保護者ならびに学科や関係事務部署と詳細な聞き取りと協議を進めながら、本学で対応可能な合理的配慮について実施・検討を行った。

④災害復興支援セクション

有事に伴う災害ボランティア復興活動・募金活動の実施

#### 4. 国際交流関係

##### A. 交流協定の締結

(米国) マーセッド・コミュニティ・カレッジ 協定締結 (4月)

##### B. 教育交流協定校への学生派遣

###### 1) 短期自費留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

派遣先	期間	人数
カナダ ECバンクーバー	2025年8月～2025年9月	1名
イギリス ECロンドン	2025年8月～2025年9月	1名
イギリス ECブライトン	2025年8月～2025年9月	1名
カナダ ECトロント	2025年9月～2025年12月	1名
	2026年1月～2026年5月	1名
オーストラリア Browns English Language School	2026年2月～2026年3月	1名

###### 2) 短期交換留学 (吉備国際大学)

大学名	期間	人数
韓国 清州大学	2025年8月～2026年2月	1名

###### 短期交換留学 (吉備国際大学外国語学部のみ)

大学名	期間	人数
ベトナム ハノイ貿易大学	2025年7月～2025年9月	1名
カナダ オカナガンカレッジ	2025年12月～2026年4月	1名
フランス ISUGA International Business School	2026年1月～2026年4月	2名
スペイン バレアス諸島大学	2026年1月～2026年6月	1名
台湾 実践大学	2026年2月～2026年6月	1名

###### 短期研修 (吉備国際大学のみ)

大学名	期間	人数
ライト大学	2025年8月～2025年9月	3名

C. 教育交流協定校からの学生受入れ

1) 短期研修（吉備国際大学のみ）

大 学 名	期 間	人数
オカナガンカレッジ	2025年6月～7月	4名
フィンドリー大学	2025年6月～7月	6名
ライト大学	2025年6月～7月	6名
パラナ連邦大学	2025年6月～7月	1名
パラナカトリカ大学	2025年6月～7月	5名

5. 施設設備関係（500万円以上の事業（修繕工事を含む））

(1) 吉備国際大学

- ・高梁キャンパス7・11・14号館空調の一部更新工事 35,900千円（実施済）
- ・中型バス購入 5,443千円（実施済）
- ・南あわじ志知キャンパス 水槽倉庫等建築工事 71,280千円（実施済）
- ・南あわじ志知キャンパス 既設建物改修工事 24,970千円（実施済）

(2) 九州医療科学大学

- ・4号棟動物飼育室系統空調の一部更新工事 52,800千円（実施済）
- ・救急救命コース機器備品購入経費 10,541千円（実施済）
- 救急救命コース機器備品等28品目70点
- ・情報処理室機器整備 15,400千円（実施済）
- ・入退館管理システム（全棟）更新工事 12,848千円（実施済）

6. その他

- ・FC吉備国際大学 Charme へのスポンサー料（吉備国際大学） 6,000千円（実施済）
- ・ファジアーノ岡山2025年度広告掲出（ピッチボード広告）（吉備国際大学） 5,500千円（実施済）

## I. 建学の理念・教育目標の具現化について

### 1. 大学の使命・目的及び教育目標の周知徹底

吉備国際大学は、開学以来「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、地域密着型総合大学として、地域に根差した人材の育成に取り組んできた。また、国際化時代を予見し、開学当初から留学生を積極的に受け入れるとともに海外の大学と教育交流協定を締結し、教育・文化交流を図ることにより、学生に国際性を備えた豊かな人間性を身につけさせることに努めてきた。本学の教育の特色と強みはこれからも「地域連携・地域貢献」と「国際化」にある。

開学30周年を迎えた2020年に、建学の理念をより具体的に実現するべく、吉備国際大学ブランドビジョン「実践的な知識を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を新たに策定した。このブランドビジョンにより、本学が育成する能力を具体的な三つの力で表し、各学科においてそれぞれをディプロマ・ポリシーに明確に定めて教育を行っている。本学はこのブランドビジョンを教育目標と定めて全教職員が共有し、それを具現化する質の高い教育を展開して、学生の三つの力を引き伸ばす。

#### 教職員に対する周知

##### 〈今年度の取り組み状況〉

- (1) ガルーン(学内グループウェア)トップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所にブランドビジョンを表示して全教職員で教育目標を共有した。
- (2) 令和7年4月12日に自己点検・自己評価会議を実施して前年度の自己点検・自己評価を行い、その結果を受けて今年度の目標・計画の作成を行った。
- (3) 内部質保証における改善課題として、「地域連携・地域貢献」と「国際化」をどのように授業に取り入れられるかを全学に提示し教育目標の更なる周知徹底に取り組んだ。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

令和4年度認証評価を受けて、令和5(2023)年度を1年目とする第三期中期目標・中期計画ではブランドビジョン「実践的な力を自ら学ぶ力、多様化する社会で生きぬく力、自分の可能性を信じる力を引き伸ばします。」を教育目標と定めて5年間の計画を策定した。教育目標を達成するための本学の教育の特色は「地域連携・地域貢献」と「国際化」にある。

吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会は今年度で3回目の開催となった。本年度は高梁市並びに学生2名を含む大学からの報告及び今後の展望について講演を行い、高梁市と大学の意思疎通が深まった。高梁市石田市長、福本教育長からも今後の展望に賛同する非常に前向きな意見の表明を頂いた。

「国際化」については第31回吉備国際大学高校生英語スピーチコンテスト、第17回吉備国際大学日本語スピーチコンテストを開催したほか、留学生と高梁市立有漢中学校の国際交流会を開催して学外にアピールした。

##### 〈次年度への課題〉

建学の理念に基づくブランドビジョンを教育目標と定めて全教職員が共有し、それを具現化する質の高い教育を展開して、学生の三つの力を引き伸ばす。

教職員に対する周知としては、ガルーントップページのバナー、ネームホルダー、名刺など至る所にブランドビジョンを表示するとともに内部質保証活動における教育での新たな取り組みとも連動して全教職員で教育目標を共有する。また、教育目標に基づき4月に自己点検・自己評価会議を実施して令和7(2025)年度の自己点検・自己評価を行うとともに、令和8(2026)年度の目標・計画の作成を行う。

#### ステークホルダーに対する周知

##### 〈今年度の取り組み状況〉

- (1) 学生便覧や大学案内、ホームページ等のメディアの内容を充実させて周知した。
- (2) 学長をはじめとして、オープンキャンパスや保護者会、入学前説明会、入学宣誓式、学位記授与式さらに高梁学生応援協力会など学内外のイベントでの挨拶やインタビュー等の機会に、本学のブランドビジョン(教育目標)と、その目標を達成するための2つの柱が「地域連携・地域貢献」と「国際化」であることを発信した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

「地域連携・地域貢献」では令和8年2月22日に地域連携・地域貢献活動報告会を開催し、本学の地域連携・地域貢献活動を学外へ広くアピールした。

「国際化」については第31回吉備国際大学高校生英語スピーチコンテスト、第17回吉備国際大学日本語スピーチコンテストを開催したほか、留学生と高梁市立有漢中学校の国際交流会を開催して学外にアピールした。

### 〈次年度への課題〉

ステークホルダーに対する周知としては、学外に対して学生便覧や大学案内、ホームページ等のメディアの内容を充実させて周知する。またオープンキャンパスや保護者会、入学前説明会、入学宣誓式、学位記授与式等の可能な機会を捉えて説明する。2026年度に向け高梁高校から新たに課題解決教育への支援依頼があった。機会をとらえてさらに建学の理念、本学教育の2本の柱を様々なステークホルダーに周知する。

## II. 学生確保について

### 1. ブランディングの強化

#### ブランドの周知と定着

##### 〈今年度の取り組み状況〉

ブランドビジョン＝教育目標である3つの力を伸ばすため大学全体で取り組んでいるのが「地域連携・地域貢献」と「国際化」であり、これが本学の教育の特色であることをあらゆる機会を通じて周知する。ホームページでは本学の取り組む「地域連携・地域貢献」と「国際化」の具体的な最新の内容を発信した。

各学部・学科の発信するSNSを通して、取り組む「地域連携・地域貢献」と「国際化」について、その趣旨、狙い、成果を含めて詳細を説明した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

地域と連携した行事や研究の状況、国際交流の行事や留学の状況について、都度ホームページに掲載し広く発信している。

学生参画を推進するために、機会をとらえて各種委員会に学生の参加を求めた。

##### 〈次年度への課題〉

2025年度開催できなかった「ブランディング実行委員会」を継続、活動強化するための方策を再度検討する。委員は各学科及び各部署の若手・中堅層を中心とし、職位を問わずまた学生の意見も含めて優れた意見を改革に反映できる体制を検討・構築しブランディングを推進する。

### 2. 入学者受入れ方針（AP）の明確化

#### APに沿った学生の受入れ

##### 〈今年度の取り組み状況〉

(1) 専願入試(A0総合選抜・指定校・特別推薦)入試において、各学科のアドミッションポリシーの周知度を確認するための質問を追加した。

(2) 一般選抜前期A方式(A-II)について、科目試験に加え小論文による選抜を行い、学力の3要素を多面的・総合的に評価した。

一般選抜前期C方式(C-II)について、科目試験に加え外部英語検定試験を利用し、「聞く」「読む」「話す」「書く」の英語4技能を評価した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

(1) 本学独自の入試問題である推薦総合選抜・一般選抜の科目試験について、現役・既卒に不利にならないように実施できた。令和7年度入試から「情報」が科目として大学入学共通テストに導入された。本学では選択科目として大学入学共通テスト利用入試で活用した。

A0総合選抜、指定校、特別推薦の専願入試について、各学科・専攻のアドミッションポリシーの理解度を面接時に確認した。

(2) 2026年度入試において、一般選抜A-II方式で11名、一般選抜C-II方式で4名の志願があった。

### 〈次年度への課題〉

- (1) 今年度の入試においても、面接時に各学科・専攻でアドミッションポリシーの確認をしてきたが、2027年度以降も質問項目として取り入れていく。
- (2) 今年度の一般選抜前期A-II、C-II方式について、志願者は少数であったが、2027年度も科目試験、小論文、調査書を選考方法とするA-II方式(総合評価型)と、科目試験と英語4技能を問う外部英語検定試験を利用したC-II方式を継続して実施していく。

## 3. 収容定員の充足

### 収容定員充足に向けた募集活動

#### 〈今年度の取り組み状況〉

- (1) ブランドビジョンを柱に各学部・学科・専攻の情報発信を行い、入学定員充足を目指した。
- (2) オープンキャンパス参加者を増やして、専願入試(A0総合選抜、指定校、特別推薦)の入学者を昨年以上に確保するために高校訪問、進学ガイダンスや出張講義、独自の学校見学会などを行い、4月～8月までの広報活動を強化した。
- (3) Web広告やダイレクトメール等を積極的に活用し、受験生等をホームページ等へ誘導してオープンキャンパスへの参加、受験に結びつける。本学のホームページやインスタグラムでの情報発信を充実した。
- (4) 「高梁市・順正学園特別奨学金制度」「南あわじ市入学奨励金制度」、岡山キャンパス外国語学部の学生を対象に創設した「伊藤奨学金等の給付型奨学金制度」の周知浸透を進めた。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

- (1) ホームページにより、学部・学科・専攻の情報発信を積極的に行った。また、奨学金制度などの新着情報も発信した。
- (2) 高校生対象の高校内ガイダンスの会場型ガイダンスに積極的に参加したことにより、昨年度より接触者数も増えた。(カッコ内は昨年度)  
高校内ガイダンス【入試広報室】83校(90校)、高校内ガイダンス・出張講義【教員】132校(99校)、会場型ガイダンス【入試広報室】46会場(36会場)接触者数(参加者数)3,500名(2,570名)であった。  
オープンキャンパスを全7回実施し、参加者数(カッコ内は昨年度)は、受験生・高校生1,073名(1,134名)であった。
- (3) 学部・学科・専攻の新着情報を発信した。イベント情報なども関連部署からの情報を速やかに発信した。
- (4) 「高梁市・順正学園特別奨学金制度」「南あわじ市入学奨励金制度」、「伊藤奨学金等の給付型奨学金制度」については、開設当時からリーフレットを作成し、校内ガイダンスやオープンキャンパス、高校訪問時に周知し、またホームページにも開示し、積極的にPRを行った。

### 〈次年度への課題〉

- (1) 2027年度募集に向けて、昨年度と同様にホームページの内容を充実させ、各学部・学科・専攻の新着情報を発信していく。
- (2) 2027年度入試の学生確保は、オープンキャンパスの参加者数を増やして、年内入試で入学者確保するために、引き続き高校訪問、進学ガイダンスや出張講義などを行い、更なる広報強化を行う。
- (3) Web広告やダイレクトメール等を活用し、オープンキャンパスへの参加、受験に結びつける。
- (4) 引き続き、ホームページやインスタグラムを利用して最新の情報発信を行い、入学者確保に繋げていく。

### 改組等による適切な学科編成

#### 〈今年度の取り組み状況〉

- アニメーション文化学部アニメーション文化学科を、アニメーション学部アニメーション学科へと名称変更を行なった。アニメーション業界全般に関わる知識と技術を学ぶ学部学科として、その特性をより受験生に明確に周知することに注力し、定員充足に向けて努めた。
- また、農学部を改組し、令和8年度より、地域創成農学科の名称を農業資源生物学科へ変更するとともに、アクアグリーンフィールド学科を新設する手続きを行なった。
- アニメーション学部アニメーション学科、農学部農業資源生物学科及びアクアグリーンフィールド学科とともに、今年度当初よりオープンキャンパスや高校訪問の場でPRするための

リーフレットの作成、ホームページ内にバナーを設置するなど募集活動に注力した。また、「高梁市特別奨学金制度」「南あわじ市入学金制度」についても併せて広く周知を行なった。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

名称変更を実施したアニメーション学部アニメーション学科については、初年度の入試において定員充足には至らなかったが、今後は学科の特色や教育内容をより分かりやすく伝える広報施策を一層強化し、ホームページやオープンキャンパス、高校訪問などを通じた周知活動を継続的に行うことで、学科の理解促進と志願者層の拡大につなげていく。

#### 〈次年度への課題〉

令和9年度より、外国語学部外国学科を改組し、社会科学部外国学科とし、入学定員40名、収容定員160名で開設する計画である。

また、新学科開設に併せて既設学科の入学定員の見直しを行い、定員充足を図る。

### Ⅲ. 教育の充実について

#### 1. 教育改善・向上

##### ブランドビジョン実現のための教育課程の見直しと充実

#### 〈今年度の取り組み状況〉

“地域連携・地域貢献”と“国際化”を2つの柱とした全学的な教育プログラムの策定を全学教養教育科目を中心に引き続き検討を進めている。特に「吉備国際大学アセスメントプラン」に基づく「アセスメントプラン実施計画」は、見直しを行いながら、確実に実施できるようになっている。また、検証結果から導き出された“課題”を“改善”へと繋げるための見直しも図っている。今後は各委員会での議論を活性化し、内部質保証委員会の改善指示のもと改善案を策定し実行した。

“地域連携・地域貢献”については、高梁市や南あわじ市との連携を含め、課題解決型(PBL)の授業を取り入れ、本学のDPにある「自己効力感」を高めることができる内容を引き続き検討している。また、これからの社会に必要とされる情報教育と語学教育については、今後も教育内容の充実と履修者増の取り組みを実施するとともに、情報教育については、BYODを推し、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の受講者増加を目指した。

“国際化”については、令和8年度より経営社会学科とスポーツ社会学科で短期留学プログラムが盛り込まれたカリキュラムを開設予定とした。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

全学教養科目や専門教育科目を中心に、学生の課題解決力、行動力、ICT活用力・語学力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力等の育成を図る取り組みが行われている。全学教養科目については、必修科目以外の選択科目の履修率を向上させるために、各学期初めのオリエンテーション時に大学生として身につけるべき能力や育成科目受講の必要性等についての口頭説明やチラシ配付による受講の奨励により、数理データサイエンスAI科目では、大学全体では「数理・データサイエンス・AI基礎・応用」の履修者が204名(前年比151.6%)であり、関心を持って受講する学生が増加傾向にあることは評価できる。

#### 〈次年度への課題〉

“地域連携・地域貢献”と“国際化”を2つの柱とした全学的な教育プログラムの策定を全学教養教育科目を中心に検討をさらに進めていく必要がある。また、英語コミュニケーション力の育成を目指す関連科目の受講率の向上に取り組む必要がある。

#### 学修支援の強化

#### 〈今年度の取り組み状況〉

学修時間の延伸に向けた方策を検討し、1年次から学修習慣を身につけさせるよう取り組むとともに、将来の目標を明確にできるように積極的に卒業生の事例や社会の第一線で働いている人の事例、国試対策の成功例の導入などを取り入れていくことを検討した。外国人留学生の学修支援として、「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」を大学ホームページや

オリエンテーションなどを通じて学内外に情報発信し、留学生の日本国内への就職支援や留学生募集などに役立てた。退学者対策についても、引き続き入学段階及び入学後の対人・学修などに関する不安など、各段階で精神的に問題を抱える学生への有効な支援方法を検討した。

「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」についてはホームページに公開し、幅広く情報発信を行っており、本年度は7名が参加している。そのうち「2025年度留学生受け入れ促進プログラム」が採択された留学生は5名である。引き続き留学生の就職活動支援や留学生募集を推進した。

また、退学者対策の一環として実施している授業欠席学生への指導については、連続2回欠席者に対してチューター・ゼミ担当教員から継続的に実施して効果を得た。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

(1) 学修時間延伸の方策については、各学科の取り組みにより計画的に進められている。

(2) 国家試験の結果（合格率）

看護師： 87.5%（全国平均94.1%） 保健師： 73.3%（全国平均89.9%）

理学療法士：92.6%（全国平均94.9%） 作業療法士： 100%（全国平均96.6%）

公認心理師：25.0%（全国平均60.0%）

作業療法士は、前年に引き続き合格率100%だが、看護師(昨年100%)、保健師(昨年89.5%)、理学療法士(昨年100%)、公認心理師(昨年100%)の合格率は昨年を下回った。

(3) 外国人留学生を対象とした文部科学省「留学生就職促進教育プログラム認定制度」については、本年度7名の受講者があり、1名が修了した。今後とも日本国内での就職を希望する優秀な留学生の就職支援として活用が期待される。

(4) 退学者数・除籍者数等(通学制学部・大学院の合計)

※R8年度は3月31日時点(受理分)、令和6年度は同時期の数値

	退学者数	除籍者数	合計	退学率	除籍率	退学・除籍率
令和6年度	31	18	49	2.3%	1.3%	3.6%
（うち留学生）	8	10	18	3.1%	3.9%	7.0%
令和7年度	32	2	34	2.2%	0.1%	2.4%
（うち留学生）	6	1	7	2.3%	0.4%	2.6%

留学生の退学・除籍者が前年より11名減となり、前年度に引き続き対策による効果を得ている。しかし、昨年度と同様に入学時より問題を抱えた学生が増加してきており、1年次から2年次の早い段階で休学や退学となるケースがある。

### 〈次年度への課題〉

外国人留学生の学修支援として新たに構築し、文部科学省に認定された「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」については、受講者が少ない状況であり、今後留学生に周知し受講者を増やす必要がある。

退学者対策については、入学段階及び入学後の対人・学修などに関する不安など、各段階で精神的に問題を抱える学生への有効な支援方法を検討する必要がある。

## 学修成果の可視化の推進と教育改善

### 〈今年度の取り組み状況〉

アセスメントプランに基づき、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価と改善に向けた取組を実行する。アセスメントプランの内容については毎年検証し、見直しを図った。

また、「PROGテスト」のデータを活用し、DPの達成度、各種アンケート結果との相関性など、データの分析と検証を行い、教育改善の基礎データとする。併せて学生へのフィードバックを丁寧に行い、学生が自らの能力を確認し、大学生活や将来の目標設定、就職活動に役立てられるようにした。学修ポートフォリオについては、継続して実施し、就職活動に結びつけられるようキャリア教育との連携を検討した。ルーブリック評価については、卒業論文、演習等以外にも範囲を広げ、活用を促進した。

「PROGテスト」のデータにより、教育改善の基礎データを作成した。また、令和8年度以降は、1年と4年の対比を行う予定である。なお、結果については、学生にフィードバックさせた。学修ポートフォリオについては、本年度も継続して行っている。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

アセスメントプランは、毎年、実施時期や点検内容、アンケート実施方法等について見直しを行った上で、計画通り実施できていることは評価できる。特に、「PROGテスト」については、

これまで学生アンケート等の自己評価が中心であった学生の能力に関する評価について、客観的なテストにより測れるようになったことで、学修成果の可視化としてより正確に検証できるようになった。

#### 〈次年度への課題〉

「PROGテスト」のデータを活用し、DPの達成度、各種アンケート結果との相関性など、データの分析と検証を行い、教育改善の基礎データとする。令和8年度には1年次と4年次のテスト結果を時系列的に比較し、能力の伸長を確認して学修成果の可視化を進める。また 学生へのフィードバックを丁寧に行い、学生が自らの能力を確認し、大学生活や将来の目標設定、就職活動に役立てられるようにする。

学修ポートフォリオについては、継続して実施し、就職活動に結びつけられるようキャリア教育との連携を検討する。

### 教育改善の取組みへの学生の参画

#### 〈今年度の取り組み状況〉

各種アンケート結果について、学生へのフィードバックの方法を検討し実施した。

また、カリキュラムについて、卒業する学生に意見を聴取する機会を設け、教育改善に取り組んだ。

授業アンケート結果について、学生へのフィードバックの方法を検討したが、昨年度に続き閲覧のみの公開となった。引き続きホームページ等での公開に向けて検討する。また、学生に意見を聴取する機会については本年度は、「教育課程編成に係る学生との意見交換会」を実施した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

教育課程編成に係る学生との意見交換会については、今年度初めて実施し授業内容の改善などカリキュラム全般についての意見・要望の聴取が出来た。

#### 〈次年度への課題〉

今年度の意見交換会において、学生からカリキュラム等について、意見要望が提出された。長期的に対応していかなければならない意見・要望もあることから各学科とも改善・修正した点を相互に確認しながら継続性を持って対応していくことが必要である。

### 大学院教育の転換と受入れの拡大

#### 〈今年度の取り組み状況〉

メディアを活用した授業手法など社会人が受けやすい体制づくりを行うなど、学部からの進学者のみならず、社会人の学位取得、学び直しやリスキリングなど、様々なニーズに対応した教育課程や授業方法を検討している。

大学院(通信制)連合国際協力研究科では本年度より会場を岡山駅前キャンパスの実施として、ハイフレックス(オンライン+対面)での授業を実施した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

大学院(通信制)連合国際協力研究科は、ハイフレックス(オンライン+対面)での授業を実施することにより、国内在住のみならず海外在住の方(アメリカ、中国、南アフリカ、ウズベキスタンなど)から、学生を受け入れることができたことは評価できる。

#### 〈次年度への課題〉

通学制の大学院についても、社会人の受け入れを視野に入れた検討が必要だと考える。引き続き通信制、通学制ともに様々なニーズに対応した教育課程や授業方法を検討していく。

## 2. 学生支援の充実

### 学生の意見・要望への対応の強化

#### 〈今年度の取り組み状況〉

学生から友人関係やクラブ活動等でのトラブルや悩みの相談があった場合は、速やかにチューター等と連携し、情報共有を行うとともに解決に向けて対応策を協議し、大きなトラブルに発展することなく解決している。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

トラブルの内容によっては学生だけでなく保護者や一般市民を含めた対応が必要になるケースもあり、丁寧かつ厳しく取り扱わなければならない場合にも適切な対処がとれ、概ね円満に解決できている。

### 〈次年度への課題〉

次年度も同様の対応をとる方針であるが、より迅速に対応すれば早期に解決できたであろう事案もあり、優先順位の見極めが課題である。

## 学生の相談体制の見直しと充実

### 〈今年度の取り組み状況〉

留学生の対応について、事件事故に巻き込まれないようオリエンテーションで説明するとともに、問題発生時には警察や関係機関と協力して、留学生が不利益にならないよう配慮し、適切に対応を行った。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

オリエンテーション等でも事件・事故の当事者にならないようわかりやすく説明を行ったが、日本語が不慣れなことや文化の違いより、諸問題が発生した。

### 〈次年度への課題〉

言葉や冊子等で説明しても理解できない学生に対して想定外の事案が想定されることから、より細かなケアが必要とされる。

## 課外活動の活性化（クラブ活動）

### 〈今年度の取り組み状況〉

学生委員会及び伊賀祭実行委員が自立して活動ができるよう学生課で支援している。体育部会も会長を選出し、活動の体制を整えることができた。また、学生委員会が伊賀祭実行委員と相互に協力して伊賀祭を成功させた。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

それぞれの団体の代表者に対する指導をより細かくしたことで、以前より学生自らが主体性を持って行動できている。今後、団体間の連携がより一層強化できれば、自治組織としての主体的な活動に期待できる。

### 〈次年度への課題〉

学友会組織やクラブ代表者の親睦会等を開催することでより一層の連携が図ることができる。

## 課外活動の活性化（地域社会との連携）

### 〈今年度の取り組み状況〉

インターナショナルフェスティバル「1Day Asia in たかはし」を開催した。開催場所を高梁総合福祉センターとしたことにより、在住外国人も含め多くの地域住民の参加があった。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

学生の実行委員が非常に良く機能し、日本人学生も留学生も垣根なく、各々の役割を果たすことができた。

### 〈次年度への課題〉

核となって動く学生の指導や育成が必要で、開催場所も市内で調整しなければならないことから根本的な実施の見直しを検討しなければならない。

## キャンパス間交流の充実

### 〈今年度の取り組み状況〉

高梁市栄町商店街において開催されたカレーフェスタに、南あわじ志知キャンパスの学生と高梁キャンパスの留学生が参加した。高梁キャンパスの伊賀祭においても、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパスの学生が参加・出店を行った。南あわじ志知キャンパスのさなぶり

祭・くにうみ祭にも、高梁キャンパス並びに岡山キャンパスの日本人学生や留学生が多数参加・出店し、有意義な交流ができた。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

違うキャンパスの学生が協力することで一つのイベントを盛り上げ、それぞれのキャンパスの魅力を相互に見出すことができたことは大きな成果である。

#### 〈次年度への課題〉

南あわじ市⇄岡山県の移動に時間がかかりスケジュールがタイトになることから、できるだけ余裕を持って行動できる日程の調整が課題である。

### 3. キャリア支援の強化

#### キャリア教育の充実

##### 〈今年度の取り組み状況〉

学生の主体的・積極的なキャリア形成を支援していくため、1年次から3年次までのキャリア教育授業において以下の方策を重点的に実施してきた。

- (1) キャリアとは何か、大学で何を習得していくのかを自分で考えて実行できるように、情報提供や実践的なキャリア教育を行った。
- (2) 社会的及び職業的自立に必要な能力である基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、キャリア・デザイン能力)を高める演習やグループワークを行った。
- (3) 就職活動に必要な情報の収集、各種書類の作成、試験や面接に関する知識やスキルを教授し、主体的に進路を決定する力の向上を図った。
- (4) 1年次の「キャリアデザインⅠ」では留学生クラスを設け、日本での生活や制度に関する情報、対人関係や就労に必要な知識とスキルを教授した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

- (1) 1年次の「キャリアデザインⅠ」では、初回に「キャリアとは何か」を教授し、自分の将来の生き方をイメージさせ、大学4年間の目標やそれを実現するための生活を考えることができるよう講義や演習を実施した。また、入学後に実施したPROGテストのフィードバックを行い、自己理解や進路選択の資料として活用した。
- (2) 「キャリアデザインⅠ」の中で、自己理解を深める演習を繰り返し行った。また、外部講師として卒業生やボランティアセンター職員を招聘し、社会と繋がっていく自分をイメージしながら実際にキャリア実践に繋がる活動をしていくことを勧めた。さらに2年次の「キャリアデザインⅡ」においても、自分の社会人基礎力や就職基礎力を自覚し高めていくための演習やグループワークを実施した。
- (3) 就職活動に必要な情報収集をする学生のために、3年次の「キャリア実践Ⅰ」の初回に情報サイト会社6社の登録を行った。また、中小企業同友会と連携し県内企業による職業理解教育、業界・企業研究、岡山県労働局による労働基準に関する基礎教育を実施した。各種書類の作成や面接については、キャリアサポートセンターにおいて履歴書やエントリーシートの添削及び面接練習等を実施し、Microsoft Teamsを利用したオンライン面接練習や就職相談にも対応した。
- (4) 行政書士を招聘し、地域での生活や日本での生活マナー、日本の法律を踏まえた働き方やルールについて指導した。また、本年度から、留学生の就職支援活動を行っている企業から講師を招聘し、日本での就職状況や今後の具体的な活動について指導した。

##### 〈次年度への課題〉

- (1) 本年度の講義内容を継続するが、次年度からは講義や演習の資料配付、授業後の課題配信をユニバーサルパスポート等を使用したオンラインで実施する。授業開始前に資料を配信し、学生自身がアクセスして入手することで、主体的に授業に取り組む姿勢を促進する。
- (2) 1年次のキャリアデザインⅠでは、社会人基礎力を高めていくため、人間関係の構築に必要なスキルやコミュニケーションに関する演習を増やしていく。2年次のキャリアデザインⅡでは、キャリアビジョンを明確にし、将来自分が目指していく目標を立てる機会を設け、振り返りを実施する。
- (3) 就職情報サイト会社の登録は、本年度と同様に各学科教員指導の下、3年次キャリア実践Ⅰの初回に実施する。また、県内企業による職業教育、岡山県労働局に労働基準に関する基礎教育は継続し、各種書類の作成や面接に関する支援も、引き続きキャリアサポートセンターの

スタッフが随時実施する。

(4) 本年度初めて招聘した就職関連会社スタッフの講義が好評であったため、次年度も継続して依頼する。日本で生活や就職活動に必要な法律等については、引き続き行政書士に講義を依頼する。

## キャリア支援における連携体制の構築

### 〈今年度の取り組み状況〉

学生及び採用企業のニーズや社会情勢の把握に努めながら、「就職率100%」並びに「就職・進学率90%以上」を目指し、以下の対策を重点的に実施し取り組んできた。

(1) 企業や病院からキャリアサポートセンターに届いたオープンカンパニー及びインターンシップ、学内における企業説明会等の情報をユニバーサルパスポートにて学生へ周知した。キャリアサポート委員をはじめとする各学科教員にも情報を共有し、学生の参加促進を依頼した。

(2) 進路相談、面接練習、書類添削等の支援は、対面だけでなくオンラインも活用して実施してきた。集団面接やグループディスカッションが想定される場合は、複数名が参加して練習を行った。また、キャリアサポートセンターへの来室が難しい場合は、Microsoft Teamsを用いたオンラインでの支援やチャットの活用で遠隔支援の充実を図った。

(3) 「キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」では、就職に関する知識・情報提供とともに、実際の就職活動において必要な実践的スキルを指導した。エントリーシートや履歴書の作成に関しても授業内で指導し、各自で作成することを課題とした。また、就職活動におけるAIの活用方法について教授し、就職活動において適切に活用するよう指導した。

(4) 「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」では、教務課、経営社会学科担当教員と連携して学生支援を進めてきた。プログラム履修学生が受講するキャリア教育科目においては、学科担当教員が個々に学習支援を行った。また、昨年度から留学生担当を担っているスタッフがキャリアカウンセラーの資格を取得し、就職に関する個別相談や添削指導、就労やビザに関する情報提供等を実施した。

(5) 企業や公的機関の単独説明会、学内インターンシップ等説明会&業界研究会(参加企業8社)等、キャリアサポートセンターが実施するイベントやセミナーについて、学生課・留学生課へ情報提供を行い、学生支援に取り組んだ。岡山キャンパス、南あわじ志知キャンパスにおいても、同様に単独説明会やセミナーを開催した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

学内での単独説明会は昨年度を上回る申し込みがあり、4年次だけでなく1年次から参加する学生が増えてきた。この企画を継続することにより、学生の企業研究及び業界研究が進み、早期の就職内定にも繋がった。

2026年度の就職率は3月末現在97.3%(昨年同時期97.8%)であり、最終的な就職率は昨年同様の高い数値となる見込みである。以下の取組が効を奏したと考えられる。

(1) 企業や病院から届いたオープンカンパニー及びインターンシップの情報をユニバーサルパスポートにて学生へ周知した。キャリア教育科目や就職ガイダンスにおいても、情報サイト会社担当者が申し込み方法等を説明する機会を設けて早期に就職活動準備を促した。

(2) キャリアサポートセンターが導入している求人検索NAVIの面談予約から申し込みのあった学生に対して、進路相談をはじめ面接練習、履歴書添削等をオンラインも活用して実施し、予約以外の学生にも臨機応変に対応し、昼休み時間も対応した。

(3) 3年次春学期のキャリア実践Ⅰ・Ⅱでは、就職に関する知識・情報提供とともに、実際の就職活動において必要な実践的スキルを指導した。

(4) 「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」は、教務課、経営社会学科担当教員と連携して進め、対象となった学生の職業意識や就職活動に関する知識・技術の向上に繋がっている。また、昨年度からキャリアサポートセンターに外国人スタッフが配置され、留学生に対して就職に関する個別相談や添削指導、就労に関する情報提供等を行った。

(5) キャリアサポートセンターが実施しているイベントや企業等の単独説明会は、新たにできた学生会館で実施した。参加申し込みをしていない学生も休憩時間等に立ち寄ることができる場所になり、企業等の情報をパネルで展示する等、学生への情報提供方法も充実した。

### 〈次年度への課題〉

(1) インターンシップやオープンカンパニーへの参加促進を強化していく。キャリア教育授業内だけではなく、ユニバーサルパスポートや求人検索NAVIからの告知、各学科のキャリアサ

ポート委員からの紹介等を行う。

(2) 学内で実施される単独説明会等の案内をユニバーサルパスポートで配信しているが、見えない学生も多い。各学科の専門性に関連のある企業やイベントの情報は、各学科のキャリアサポート委員からも学生に案内をするよう依頼する。

(3) 就職支援、進学等の支援について現段階の予約時間(対応時間)を見直し、より多くの学生対応ができるよう取り組んでいく。

(4) 留学生を採用できる企業の開拓及び学内での企業単独説明会を実施する。留学生対象の就職ガイダンスも実施していく。

## 4. 図書館の活用

### 図書館環境の充実

#### 〈今年度の取り組み状況〉

(1) 図書館資料 2025年度における図書館資料の整備状況は、以下のとおりである。

蔵書冊数は248,300冊(内洋書38,199冊)、年間受入図書冊数は1,746冊であり、所蔵雑誌種数については843種(内外国雑誌396種)、年間受入雑誌種数69種となった。電子的情報資源として、電子ジャーナル種数は22,058種(内国外20,400種)、電子書籍は221点(内国外73点)、検索環境整備の指標となるメタデータ件数は769件であった。

購入図書の選書にあたっては、利用実態を踏まえ、利用頻度の高い分野並びに学修・研究支援上必要性の高い資料を優先的に購入している。また、教員や学生からの推薦・希望を受け付けることとし、教育研究に資する図書の充実などに努めている。図書購入は複数キャンパスで実施しているが、同一図書を重複して購入すると予算の効率的活用を妨げる可能性があるため、各キャンパス間での情報共有と調整を重視してきた。図書の除籍や雑誌の継続・廃棄などに関しては、図書館運営・研究紀要編集委員会において審議されている。学修ニーズを反映した資料構築を維持し、書架スペースの合理的な活用と適切な資料保存環境を保つため、年2回の除籍を進めた。除籍決裁後には、学生・教職員へ向けて無償譲渡を実施した。

(2) 利用数 入館者数(延べ人数) 30,580人、図書貸出冊数 1,928冊、学術機関リポジトリ利用数(アクセス数) 77,690件であった。

(3) 機器更新状況 パソコンの機器更新については、計画に基づき更新作業を実施した。

(4) ラーニングコモンズ 企画展示では、教員からの依頼を受け、認知症支援の啓蒙活動の一環として、高梁市地域包括支援センターによる「認知症サポーター企画展示」【期間：10月2日～10月30日】を開催した。また、障害・福祉事業への理解促進を目的として、社会福祉法人旭川荘によるアート展「旭川荘アートギャラリー展」【期間：11月4日～11月27日】を開催した。

さらに、アニメーション学科主催の作品展を実施し、第一期【期間：12月9日～12月22日】は、点描画作品二人展「点・てん・展」、第二期【期間：2026年1月20日～2月2日】、第三期【期間：2026年2月3日～2月16日】は、アニメーション学科学生による個展を開催した。一般公開をすることで、多くの来場者に作品を鑑賞してもらう機会を創出した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

(1) 図書館資料 受入図書冊数としては増加がみられない場合であっても、利用頻度を重視した選書を行っている。また、図書館システムの活用により、購入申請段階で重複を検出・回避できている。電子資料数は増えており、総合的な資料提供量としてはむしろ増えている。提供資料の質的確保を図っている。

(2) 利用数 電子資料の利用は年々増加しており、資料提供は紙媒体に限られず、電子書籍やデータベースの導入によって情報提供の質・量ともに拡充している。したがって、貸出冊数や入館者数のみを指標とする従来の評価方法では、現行のサービス実態を十分に反映しているとは言えない。今後は、電子資料の利用状況も含めた、より総合的な評価指標の整備が求められる。

(3) 機器更新状況 老朽化機器の解消、電子資料閲覧の利便性向上、およびセキュリティリスクの低減が図られた。

(4) ラーニングコモンズ 来館者から寄せられた意見・感想を収集し、依頼者へ報告のうえ、今後の企画展運営の参考とした。学科主催の作品展においては、学生が同学科の個展を鑑賞したことをきっかけに、自身も契機となり、個展を開催したいという意欲が高まった。その後、学生は自主的に企画立案に取り組み、準備を進め開催した。外部刺激を自身の成長につなげ、主体性・実行力・創造性をもって形にした姿勢は、学修成果として大きな価値がある。

### 〈次年度への課題〉

- (1) 図書館資料・(2) 利用数 電子資料の利用が年々増加しており、紙媒体の資料購入が抑制される傾向がある。利用者のニーズに合致した資料を適切に提供することが今後の指標となる。
- (3) 機器更新状況 今後も引き続き更新状況を検証し、適切な機器管理に努める。
- (4) ラーニングコモンズ 企画展示を今後も発展・継続していくことを目指す。

## 5. 学修環境の整備

### 施設・設備の整備

#### 〈今年度の取り組み状況〉

高梁キャンパスでは、7・11・14号館の空調機器の一部更新を行った。また、人間科学部人間科学科心理学専攻で使用するシールドルームの設置を行った。

岡山キャンパスでは、1号棟2階大講義室で使用するプロジェクター2台の更新を行った。

南あわじ志知キャンパスでは、令和8年度に開設するアクアグリーンフィールド学科教員の使用する研究室及び一部の演習室を整備した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

高梁キャンパスでは、7・11・14号館の空調機器の一部更新を10月に完了している。また、人間科学部人間科学科心理学専攻で使用するシールドルームの設置は3月に完了した。

岡山キャンパスでは、1号棟2階大講義室で使用するプロジェクター2台の更新は6月に完了した。

南あわじ志知キャンパスでは、令和8年度に開設するアクアグリーンフィールド学科教員の使用する研究室及び一部の演習室を3月に完了した。

### 〈次年度への課題〉

南あわじキャンパスの講義室、演習室、実習室及び体育館の電灯がLED化されていないので、更新を進める。

各キャンパスとも施設設備の修繕を要する箇所があるので、優先度を決めて適切に対応していく。

## IV. 研究推進について

### 1. 研究力の強化

#### 科学研究費補助金及び公的研究費への応募促進

##### 〈今年度の取り組み状況〉

6月25日(水)に開催した「コンプライアンス教育・研究倫理教育研修会」において、科研費採択者による講演「科研費採択者体験談～私の研究計画調書、こんな工夫をしました～」を実施した。また、7月23日(水)には「令和8年度公募 科学研究費助成事業 公募要領等説明会」を開催し、制度理解の促進を図った。

公的研究費および民間研究費については、募集通知が届き次第、全教員へ周知しており、関係教員が継続的に応募している。

学内共同研究費については、5件の研究に対して配分を行い、科研費応募を見据えた予備調査や継続調査を支援した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

科研費採択者による体験談講演および公募要領説明会を計画どおり実施し、教員の科研費制度への理解促進と申請意欲の向上に努めた。しかし、科研費申請件数は長期的に減少傾向にあり、課題が残る。

公的研究費・民間研究費の募集情報を適宜周知し、関係教員が継続して応募している点は評価できる。

学内共同研究費を5件に配分し、科研費申請を見据えた予備調査・継続調査を支援したことは、研究基盤の強化に寄与したと評価できる。

### 〈次年度への課題〉

学科ごとに設定する科研費申請件数の目標値を確実に運用し、進捗確認や学科内での情報共有を含む組織的な申請促進体制を構築する必要がある。

若手教員・新任教員を中心に、研究計画調書作成支援やメンタリング制度など、申請スキル向上のための体系的支援策を強化する。

学内共同研究費の成果を可視化し、科研費申請への接続をより明確にすることで、研究力強化の好循環を生み出す必要がある。

## 研究部門自己点検・自己評価の実施と評価結果による見直し

### 〈今年度の取り組み状況〉

研究部門では、学内の研究実績を体系的に整理し、「研究部門自己点検・自己評価報告書」として3月に取りまとめた。さらに、この報告書について外部評価委員による評価を受け、その結果を研究活動の活性化に活用している。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

研究部門では、年間の研究実績を取りまとめる体制と、外部評価委員による評価を受ける仕組みが一体的に機能しており、客観的視点からの助言や指摘を得る体制が一定程度確立している。

研究実績の可視化が進んだことで、学内研究者の活動状況を把握しやすくなり、研究推進に向けた基礎データとして活用できる環境が整備された。

### 〈次年度への課題〉

研究成果の可視化を学内にとどめず、ウェブ掲載や広報資料などを通じて学外へ発信し、大学全体の研究力アピールを強化することが求められる。

自己点検・自己評価の結果や外部評価の内容を踏まえ、研究支援制度の改善や若手研究者育成施策など、組織的な研究力強化につながる仕組みづくりをさらに進める必要がある。

## 研究成果の積極的な発言と研究交流の推進

### 〈今年度の取り組み状況〉

各教員が学会発表および研究論文の発表に取り組んでおり、その最終的な成果は研究部門自己点検・自己評価の際に取りまとめている。

全教員が年2回(3月・9月)researchmapを更新し、研究成果を学内外に向けて発信している。

3月12日(金)に順正学園学術研究会を開催し、順正学園内における研究交流の促進を図っている。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

各教員が継続的に学会発表や論文発表に取り組んでおり、研究成果の外部発信が個々のレベルで着実に進んだ。これらの成果は研究部門自己点検・自己評価報告書に集約され、大学全体の研究活動の可視化に寄与している。

全教員によるresearchmapの年2回更新が定着し、研究成果の公開性・透明性が向上した。学外からの研究者情報へのアクセスが容易になり、共同研究や地域連携の基盤強化につながっている点は評価できる。

順正学園学術研究会(3月12日開催)を通じて、学園内の研究交流を促進する機会を確保した。学内研究者が成果を共有し、学際的な連携の可能性を広げる場として機能している。

### 〈次年度への課題〉

researchmapの質を高めるため、教員向けの研修やサポート体制を整備し、研究成果の記述内容やキーワード設定の最適化を促す必要がある。

学術研究会を単発のイベントで終わらせず、成果のフォローアップや共同研究への発展を促す仕組みを検討することが求められる。

研究成果の発信を地域連携や社会実装へとつなげるため、外部機関との情報共有や共同研究提案につながる仕組みづくりを進めることが今後の重要な課題である。

## 2. 社会実装の推進

### 産学官連携研究の推進

### 〈今年度の取り組み状況〉

学部単位で産学官が連携する研究会の設置を目指していたが、今年度中の実現には至らなかった。

9月24日(水)のFD・SD研修会において、岡山県企業と大学との共同研究センター長・佐藤兼郎氏より、同センターの活動紹介が行われ、本学教員に対して産学官連携への参画が呼びかけられた。

11月27日(木)に開催された「第30回 岡山リサーチパーク研究・展示発表会」において、人間科学部人間科学科(作業療法学専攻)の教員が研究発表を行った。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

学部単位での産学官連携研究会の設置については、構想段階から具体化に至らず、体制整備や関係機関との調整が十分に進まなかったことが明らかとなった。研究会設置に向けた課題の整理や、学部内での合意形成プロセスに改善の余地がある。

「第30回 岡山リサーチパーク研究・展示発表会」での発表を通じて、大学の研究活動を地域に発信する機会を確保できた点は、社会実装に向けた取り組みとして意義がある。ただし、活動が個々の教員に依存しており、組織的な連携推進には課題が残る。

### 〈次年度への課題〉

学部単位の産学官連携研究会設置に向け、目的・役割・運営体制を明確化し、学部内での合意形成を進める必要がある。特に、教員にとっての参加メリットや研究支援制度との連動を示すことで、実現可能性を高めることが求められる。

産学官連携の機会を拡大するため、地域企業や行政との接点を増やす仕組みを計画的に整備することが課題となる。

## 研究成果の地域社会への実装

### 〈今年度の取り組み状況〉

地域貢献教育研究活動助成金については3件、SDGs教育研究活動助成金については3件の申請に対して配分を行い、地域志向研究および持続可能な社会づくりに資する研究活動を支援した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

採択された研究は農学部・人間科学部をはじめ複数の学部にもたがり、地域課題の解決や教育効果の向上に寄与する内容が多かった。これにより、大学としての社会実装力の向上に一定の成果が認められる。また、研究者の地域連携に対する意識が高まり、地域社会との協働を促進する基盤づくりに貢献した点は評価できる。

### 〈次年度への課題〉

助成金による研究成果を地域社会および学内外へ効果的に発信する仕組みを強化し、社会実装の可視化を一層進める必要がある。また、研究成果を地域で実装するプロセスには多くの教育的要素が含まれているため、それらを体系的に整理し、授業や教育プログラムへ還元する仕組みを構築することが求められる。

## 3. 研究倫理・コンプライアンスの充実

### 研究倫理の確立とコンプライアンスの厳正な実施

#### 〈今年度の取り組み状況〉

① 6月25日(水)にコンプライアンス教育・研究倫理教育研修会を開催した。今年度もコンプライアンス違反、研究倫理違反はなかった。

② 「公的研究費の不正使用防止に関する基本方針」、「公的研究費の使用に関する行動規範」、「公的研究費の不正使用防止計画」を教職員に周知すると共に「コンプライアンス教育・啓発活動実施計画 2025年度版」に基づきコンプライアンス教育・啓発活動を実施し、コンプライアンス違反ゼロを継続した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

コンプライアンス教育・研究倫理教育については、研修会を開催すると共に、ガールーンでの掲示等を活用して啓発のメッセージを発信した。また、学生に対する研究倫理教育は、演習科目等の授業で行うことをシラバスに記載し、各学科の授業の中で行っている。なお、コンプ

ライアンス教育・研究倫理教育研修会において確認テストを行った結果、点数が低い教員がいたため、コンプライアンス推進責任者兼研究倫理教育責任者からの指導を行っている。

#### 〈次年度への課題〉

コンプライアンス関連規程および研究倫理関連規程の周知と違反の予防を図る。研究倫理教育を一層充実させ、倫理違反ゼロを継続する。また、コンプライアンス教育・啓発活動を充実させ、コンプライアンス違反ゼロを継続する。

### 研究インテグリティの確保

#### 〈今年度の取り組み状況〉

令和7年4月1日付けで、研究インテグリティの確保に関する規程を制定し、研究インテグリティ・マネジメント委員会を設置。また、安全保障輸出管理規程を制定し、輸出管理委員会を設置している。学内への研修(周知)に関しては、検討するにとどまった。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

研究インテグリティの確保等に関する一連の規程等を整備することはできたが、実際の運用に当たって学内への研修(周知)をする必要がある。

#### 〈次年度への課題〉

研究環境の変化とリスクマネジメントの必要性から、これまでの研究インテグリティの取組を基盤とし、研究セキュリティも含めた取組の進展が求められている。安全保障輸出管理も併せ、技術流出リスクに対する多様なリスクマネジメントが求められていることから、研究活動のリスクを正しく評価し、リスクに備えるため、継続的な情報収集と啓発活動が必要である。

### 研究データポリシーの策定

#### 〈今年度の取り組み状況〉

令和7年4月1日付けで、研究データポリシー、オープンアクセスポリシーを制定し、10月7日(火)に学術機関リポジトリ運用指針(ガイドライン)と登録申請について教員向けに案内をして

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(国のOA基本方針)」(関係府省申合せ)において求められる学術論文及び根拠データの公開のための基盤を整え、本学の機関リポジトリにおいて学術論文及び研究データの収載とメタデータの付与が推進できるように案内できた。

#### 〈次年度への課題〉

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針(国のOA基本方針)」(関係府省申合せ)において求められる学術論文及び根拠データの公開のため、本学の機関リポジトリにおいても公開可能であることを引き続き啓発する。

### 動物実験への倫理的配慮

#### 〈今年度の取り組み状況〉

11月26日(水)に実験動物慰霊祭を実施した。また、教育訓練(動物実験規則説明講習会)については、対象者が確定した後に行う予定であったが、対象者はなく実施しなかった。

動物実験の自己点検評価を行い、外部検証を受審した結果、動物実験の実施体制に若干の見直しが必要であるとの指摘を受けた点について、見直しを行った。

2月26日(木)に動物実験内部監査を行い、動物実験が適切に行われていることを確認した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

実験動物慰霊祭の実施、動物実験の自己点検評価、動物実験内部監査を行い、動物実験の実施体制の見直しを行い、動物実験が適切に行われていることを確認できた。

#### 〈次年度への課題〉

動物実験の自己点検評価、動物実験内部監査、動物実験に関する教育を確実にを行い、動物実験の基本指針と倫理的配慮を徹底する。

## 4. 安全への配慮等

### 化学物質の管理

#### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① 環境マネジメントシステムの運用と連携して化学物質の管理を行い、適正に管理されていることを確認した。
- ② 化学物質について、使用者がリスク管理を徹底し、事故等の未然防止に努めた。
- ③ 毒劇物、麻薬類、放射性物質等については、該当する物質がある場合には、管理簿を作成して管理している。

なお、6月5日(木)高梁警察署によって、爆発物の原料となり得る化学物質の保管状況調査があったが、適切性が確認された。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

化学物質の実験上の安全への配慮については、環境マネジメントの一環として化学物質の管理を行っている。

#### 〈次年度への課題〉

実験の安全管理について、法令遵守を基本として、徹底する。

### 組換えDNA実験等の安全管理

#### 〈今年度の取り組み状況〉

組換えDNA実験安全管理規程の確実な遵守を呼びかけた。  
規程に従って組換えDNA実験を行っている。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

組換えDNA実験安全管理規程を確実に遵守し、DNA実験等の安全管理に努めた。

#### 〈次年度への課題〉

今後も組換えDNA実験安全管理規程を確実に遵守し、DNA実験等の安全管理に努める。

## V. 大学運営について

### 1. 持続可能性の追求

#### SDG's 達成を目指した活動の推進

##### 〈今年度の取り組み状況〉

##### (1) 持続可能性を志向した活動の推進

① 学内で行われている研究活動をSDGsの各ゴールに紐付けし、持続可能性に寄与する研究を推進する。

② 大学の組織活動をSDGsのゴールに紐付け、全学的に持続可能性を志向した取り組みを進める。

③ SDGs教育研究活動助成金を配分し、SDGsに関連する研究を支援する。

##### (2) 持続可能性に寄与する人材の育成

すべての授業をSDGsのゴールに紐付け、持続可能性の視点を踏まえた教育を行うことで、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成する。

##### (3) SDGs活動の情報公開

SDGsへの取り組みを測定・評価し、大学の歩みと成果を分かりやすく可視化するための仕組みを整備するとともに、情報公開のシステムを構築する。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

##### (1) 持続可能性を志向した活動の推進

① 研究活動のSDGsゴールへの紐付けについては、現在検討中である。

② 組織活動のSDGsゴールへの紐付けについても、引き続き検討中である。

③ 3件の研究に対してSDGs教育研究活動助成金を配分し、教育研究活動を推進した。

(2) すべての授業をSDGsのゴールに紐付け、シラバスに明記するとともに、持続可能性に寄与する人材の育成を目指して教育を実施している。

(3) SDGs活動の概要はホームページで公開している。評価システムの構築については、現在検討中である。

### 〈次年度への課題〉

(1) 持続可能性を志向した活動の推進

① 研究活動および組織活動のSDGsゴールへの紐付けは今年度「検討中」にとどまっており、体系的な整理が進んでいない。併せて、教職員への周知や紐付け作業を支援する体制の構築が課題である。

② SDGs助成金の配分は実施できているものの、採択件数の拡大や研究成果の可視化が十分ではない。助成制度の周知強化と成果発信の仕組みづくりが求められる。

(2) 全授業でSDGsゴールをシラバスに明記しているが、紐付けの深さや教育内容との整合性にはばらつきが生じる可能性がある。形式的な紐付けにとどまらず、教育内容に根差した質の高い紐付けへと改善することが次年度の課題となる。

(3) SDGs活動の公開は行っているものの、現状はホームページでの掲載にとどまり、情報の体系的な更新頻度に課題が残る。大学全体の取り組みを一元的に整理し、継続的に更新できる情報公開体制の整備が必要である。

## 環境マネジメントの推進

### 〈今年度の取り組み状況〉

(1) エネルギー消費量の削減

① 2023年度から5年間にわたり年平均1%以上のエネルギー消費量の削減を目指して取り組んでいる。エネルギー消費量は着実に削減できており、本年度の目標である2022年度比3%削減は達成できる見通しである。

② 機器更新時に省エネ機器を設置するとともに、キャンパス内の電灯のLED化を更に促進し、エネルギー消費量を削減した。機器更新時にはエネルギー消費量の削減を念頭に省エネ機器に更新する事を進めた。また電灯のLED化は、教室の更新は高梁キャンパスにおいてほぼ完了しており、今年度では部分的な更新に留まった。

③ 環境教育等による啓蒙活動を充実し、教職員および学生の省エネ意識を向上させ、エネルギー消費量削減行動を推進した。環境の話題を取り扱う授業において教育を推進した。

④ 2030年温室効果ガス排出量-46%(2013年度比)に向けた取組を行った。省エネ活動の推進及び省エネ機器の導入、再エネの活用などを通じて、目標達成を目指した。

(2) 環境マネジメントシステム(EMS)活動の確実な実施

① 全キャンパスにおけるEMS活動の推進と情報収集に継続的に取り組み、環境負荷の低減を目指した。年2回、各専攻・学科から情報収集を継続的に行った。

② 教授会やガールン掲示板を通じて、全学的にEMS活動の周知と取り組みの推進、活動実績の公表を行った。

(3) EMS教育の推進

新入生をはじめとし、全学生に対してオリエンテーション時などの機会を活用してEMS教育を実施し、学生のEMS活動への参加を促進した。春学期、秋学期の新入生・在学生オリエンテーション時にEMS教育を実施した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

環境マネジメントについては、例年通りデータの収集と解析を行った。新入生と在学生に対するEMS教育は継続して実施しており、環境意識の醸成に繋がっていると思われる。

### 〈次年度への課題〉

環境マネジメントの取り組みを継続して推進し、年平均1%以上のエネルギー消費の削減を達成する。新入生と在学生に対するEMS教育を継続して行う。

南あわじ志知キャンパスの教室及び体育館の電灯LED化が進んでいないので、設備更新を進めエネルギー消費量の削減を行う。

## 2. 職能開発の強化

### FD・SDの充実

#### 〈今年度の取り組み状況〉

建学の理念を踏まえ、教育目的および教育目標（ブランドビジョン）の実現に向けて、FD・SD活動を推進してきた。授業内容や教育方法の改善に取り組むとともに、教育研究活動等を

適切かつ効果的に展開するため、組織的な研修機会を設けた。今年度は以下の研修会を実施し、教職員の資質向上および能力開発を図った。

## 1. 全学FD・SD研修会

[日時]

令和7年9月24日(水) 14時00分～15時30分

[方法]

Microsoft Teamsによるオンライン開催

[対象者]

吉備国際大学に所属する教職員及び大学院博士後期課程在学学生

[目的]

現在、生成AIは急速に進化しており、その応用範囲はますます拡大している。こうした変化は、大学における教育および研究の現場にも影響を及ぼしており、利用指針に基づく適切な活用が求められている。本研修会では、生成AIに関する基礎的知識、適切な使用方法および関連リスクについて理解を深めるとともに、具体的事例を通じて、責任ある効果的な活用の視点を提供する。本研修会を通じて生成AIへの理解を一層深め、今後の教育活動に活用することで、本学の教育目標（ブランドビジョン）の実現に寄与することを目的とする。

[内容]

講演テーマ 生成系AIについての利用指針

講師 佐藤匡氏（情報教育センター分室長、外国語学部 外国学科 教授）

講演テーマ 生成AIの利活用と留意点

講師 小林朝雄氏（吉備国際大学 非常勤講師、元くらしき作陽大学 教授）

## 2. 学科別FD研修会

[日時]

2025年度秋学期

[方法]

研修内容は、各学科・専攻のFD・SD推進委員が学科長・専攻長と協議のうえ検討し、各学科・各専攻の状況を踏まえ、特色に応じたFD研修会を以下の手順により実施した。

### (1) 実施案の提出

研修内容が決定した後、各学科・専攻のFD・SD推進委員は、同委員会へ実施案を提出

### (2) 学科別FD 研修会の実施

実施案に沿って学科別FD研修会を開催

### (3) 実施報告の提出

研究会の実施後、各学科のFD・SD推進委員は同委員会へ実施報告を提出

※欠席者に対しては動画資料や資料配布等の代替措置を講じ、全教員が参加できるように配慮

[対象者]

各学科の教員

[目的]

学科別FD研修会を開催し、学科（人間科学科は専攻）の特色に沿った内容について組織的な研修を実施し、教育および授業内容・方法等の改善を目的とする。

[内容]

各学科の実施内容は以下の通り。

- ・経営社会学科  
テーマ 教学IRデータにもとづく、学習成果の把握と教育活動の点検
  - ・スポーツ社会学科  
テーマ 新カリキュラムにおける初年次教育について
  - ・看護学科  
テーマ 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定に伴う本学科のDPや独自性の検討
  - ・人間科学科  
テーマ 人間科学科における学科共通科目の効果的な運用について
  - ・アニメーション文化学科  
テーマ ゼミ等における欠席しがちな学生に対する指導法と就職支援について
  - ・地域創成農学科・海洋水産生物学科・志知キャンパス事務（合同開催）  
テーマ 進む少子化を見据え、農学部教育魅力を高めるための方策を議論しよう
  - ・外国学科  
テーマ 心身の不調を抱える学生への指導・支援方法
- 以上の通り、研修会を実施した。さらに、SD研修の一環として、研究推進部門が中心とな

り、コンプライアンス教育および研究倫理教育研修会を開催した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

春学期には全学FD・SD研修会を、秋学期には学科別FD研修会を開催した。全学FD・SD研修会では大学全体に共通する課題を取り上げ、学科別FD研修会では各学科・各専攻の特色に応じた課題をテーマとした。これらの組織的な研修機会を通じて、教職員の資質向上および能力開発に努めた。

全学FD・SD研修会では、生成AIに関する基礎的知識、適切な使用方法および関連リスク等についての理解を深めることを目的として、具体的な事例を交えた研修を実施し、今後の教育活動への活用を促した。学科別FD研修会では、専門分野の特性を踏まえ、各学科・各専攻の特色に応じた研修会を開催した。各学科・各専攻のFD・SD推進委員が学科長・専攻長と協議のうえ、テーマ・内容・方法を検討し実施した。また、実施案および実施報告書はFD・SD推進委員会において共有し、今後の研修の改善に資するよう活用している。

以上のとおり、教職員の資質向上および能力開発に資する研修会を実施した。

#### 〈次年度への課題〉

建学の理念、教育目的および教育目標(ブランドビジョン)を実現するため、FD・SDの充実を図る。職能開発の強化については、FD・SD推進委員会が中心となり、教育研究および授業の改善、本学の特色である地域連携・地域貢献、国際化、さらには大学運営に必要な知識の習得および情報共有等に関して、全学または学科別の組織的な研修機会を設け、教職員の資質および能力の向上に取り組んでいく。

### 3. 人権・安全への配慮の充実

#### 労働環境の整備、充実

##### 〈今年度の取り組み状況〉

私立学校法の改正に伴い、内部統制システムの体制整備を行う一環として「公益通報等に関する規程」を一部改正した。また、規程に則り、コンプライアンス窓口を法人本部総務部総務課及び大学庶務部庶務課に設置して体制を整備した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

「公益通報等に関する規程」を一部改正するとともに、あらたに「コンプライアンス推進規程」を制定した。また、それらの規程に則り、窓口の設置、運営を適切に行っている。今年度は、窓口への通報はなかった。

##### 〈次年度への課題〉

引き続き、コンプライアンス窓口を適切に機能させるとともに、可能な限り通報の必要がないよう労働環境の整備、充実に努める。

#### 人権関連の研修の充実

##### 〈今年度の取り組み状況〉

令和7年度岡山県大学人権・同和教育懇談会に参加し本学の取り組みについて報告を行うとともに他大学の状況について情報収集を行い、人権教育推進委員会で学内の情報共有を行った。

また、キャンパスハラスメントについても例年どおりポスターによる啓発活動を行うとともに、ハラスメント防止研修会において相談対応法などの内容を含めることで、教職員全員がハラスメント相談員という意識を持ち、ハラスメントか否かにこだわらない相談対応を心がけている。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

人権教育については、毎年研修会を実施し、教職員に意識を持たせることが必要である。

キャンパスハラスメントについても教職員全員がハラスメント相談員という意識を持ち、ハラスメントか否かにこだわらない相談対応を心がけることが評価できる。

##### 〈次年度への課題〉

人権に関して配慮が必要な事項が多様化する中、学生及び教職員に対して適切な教育、研修が必要となってきた。本学でも障がい学生、LGBTQ等の学生、外国人留学生など、多様な

学生を受け入れており、必要な対応ガイドラインなどの整備や人権教育により、差別のない環境づくりが今後の課題となる。

引き続き、キャンパス・ハラスメントの防止、排除に向けた啓発活動を行い、適切に対応ができるようにする。

## 4. 法人部門との連携の円滑化

### 管理運営機関の連携と相互チェック

#### 〈今年度の取り組み状況〉

改正私学法及び新寄附行為に則り、法人の管理運営機関を適切に整備し運営した。理事会には学長が理事として就任し、学園の意思決定において大学を代表して意見を述べた。また、学園協議会により設置校間に共通する重要事項を協議し、相互の連携強化と業務の円滑化を図った。大学協議会は総長が招集し、議長となって大学の教学に関する重要な事項の決定について理事会との意見調整を行い意思決定の円滑化を図った。

さらに、これらの理事会、評議員会、学園協議会及び大学協議会等の構成により相互チェック体制を整備し、適切に機能させた。

監事は、理事会及び評議員会に出席して学園の業務及び財産の状況や理事の職務の執行状況を把握するとともに意見を述べる。その他、会計監査人や内部監査部門と連携して監査業務を実施し、その結果を理事長に報告した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

6月開催の定時評議員会において、理事、監事、評議員及び会計監査人を選任し、新たな管理運営体制を適切に整備した。

定時評議員会のほか、理事会、評議員会を必要に応じて開催し、学長が理事として、校長が評議員としてそれぞれ出席し、学園の意思決定において設置校を代表して意見を述べている。

また、5月と12月に学園協議会を開催し、設置校間に共通する議題を協議するとともに連携強化を図っている。さらに、これらの会議体を適切に運営することで相互チェック機能を果たしている。

監事は、理事会、評議員会に出席するとともに、常勤監事1名は、法人本部に週2日出勤して、監査計画に基づき監査している。監査の実施にあたっては内部監査部門である法人本部総務部や会計監査人と連携して業務を行っている。

#### 〈次年度への課題〉

次年度も引き続き、それぞれの管理運営機関を適切に運営するとともに、法人部門と設置校の管理運営機関の連携に努め、意思決定の円滑化と相互チェックを機能させガバナンス強化に努めていく。

## 5. 財政基盤の確立

### 中期的な計画に基づく財務運営と安定した財務基盤の確立

#### 〈今年度の取り組み状況〉

決算をもとに中期財務計画を見直し、学園の今後の財務状況の推移を的確に把握する。また、計画にもとづき安定した財務基盤の確立に取り組んだ。

学納金のほか外部資金獲得による収入の増加、人件費及び経費の削減による支出の抑制を推進し、収支バランスの改善を図った。

特に、学納金収入について、大学のブランディングにもとづいた広報活動を展開するとともに、より魅力ある学部学科への再編を含めた募集戦略、高梁市・順正学園特別奨学金制度をはじめとする本学独自の学生支援の充実等により、定員確保を目指して学生募集を強化した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

令和6年度決算をもとに第二期中期財務計画を策定した。収支改善の取り組みとしては、各設置校のブランディングの推進及びそれに基づく広報活動の強化、また、独自の奨学制度や応援学費など学生支援を充実し、定員確保を目指して学生募集に取り組んでいる。

令和8年度には吉備国際大学農学部にあくアグリーフィールド学科を開設するとともに、地域創成農学科を農業資源生物学科へと名称変更して学部を新体制とするなど、より魅力ある大学づくりに取り組んでいる。

### 〈次年度への課題〉

収支バランスを確保するために、引き続き、全設置校において学生定員充足による学納金収入の増加が喫緊の課題である。学園の安定した財務基盤の確立や経営改善に向けて、令和7年度決算をもと第二期中期財務計画を修正し、学園の財務状況の見通しを明らかにする。

## 6. 適正な会計処理の実施

### 職員の知識向上

#### 〈今年度の取り組み状況〉

学校法人会計基準に準拠し、順正学園経理関係諸規程に則った適正な会計処理を行う上で必要な知識向上を図るため、会計課内で研修会を実施した。

また、今年度より「学校法人会計基準の一部を改正する省令」が施行されるので、新基準に対応した適切な会計処理が行えるよう、関係資料を熟読して会計担当職員の知識向上に努めた。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

私立大学協会が行う経理担当者研修会参加者が報告会を行って情報共有する事や、課員が自己研鑽を行う事で、順正学園経理関係諸規程に則った適切な会計処理を概ね行えている。

### 〈次年度への課題〉

より一層確実かつ迅速に会計処理が行えるよう、課内のチェックを厳格に行う。  
また、課内の情報共有を徹底し各種の要望に適切に対応できるよう努める。

### 会計監査の厳正な実施

#### 〈今年度の取り組み状況〉

公的研究費については、10月～12月に常勤監事による科学研究費助成事業等に関わる経理関係全ての証憑書類の確認を含めた厳格な監査及び報告を受けた。それを受けて12月下旬に修正及び対応を報告した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

公的研究費について、監事の監査報告を受けて適切に対応した。

### 〈次年度への課題〉

機器備品の管理について、棚卸を行い資産管理の適正化に努める。  
公的研究費について、適正な会計処理に努める。

### 諸規定に則った適正な会計処理

#### 〈今年度の取り組み状況〉

会計処理を行うにあたり、学校法人会計基準、順正学園経理諸規程及び研究費マニュアル等に沿った大学の会計処理ルールの共通認識の徹底に努めた。

その点を踏まえて、今年度当初に学校法人全体の予算編成方針に従って各部門で目的別に編成した予算をシステムに登録した上で、補正予算編成を経て適切な予算執行を行えた。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

概ね順正学園経理諸規程に沿った会計処理が行っていた。

一部、公的研究費に係る監査報告にもあった指摘事項については厳密に対応する必要がある。

### 〈次年度への課題〉

次年度も、学校法人予算編成方針に従い、大学各部門において目的に見合った予算作成を行い適切な執行を行えるよう努める。

また、研究費使用マニュアルの更新を行う。

## VI. 内部質保証について

## 1. 内部質保証体制の確立

### 内部質保証体制図に基づくPDCAサイクルの仕組みの確立

#### 〈今年度の取り組み状況〉

##### (1) 中期目標・中期計画を起点としたPDCAサイクルの実現

令和5年3月に、令和5年度から令和9年度までの第3期中期目標・中期計画書を策定し、実行に移して、本年度が3年目となる。第3期中期目標・中期計画書では、大学機関別認証評価の評価項目に沿った項目で目標を設定し、中期目標・中期計画を各年度の事業計画に落とし込み、以下のようなPDCAサイクルを実現して内部質保証体制の確立を図っている。各年度事業計画(P)⇒計画実行(D)⇒自己点検・自己評価(C)⇒改善指示(A)⇒翌年度事業計画策定(P)

##### (2) 自己点検・自己評価の実施

自己点検・自己評価会議を4月に実施し、学長・副学長が前年度の取り組み状況や結果の点検・評価、次年度への課題等について発表した後、学部学科・部門ごとに改善案を検討している。また、外部評価委員との意見交換の場を設け、外部評価委員の評価を受けた自己点検・自己評価報告書と自己点検・自己評価会議で議論した改善案を基に、翌年度の事業計画を立てる仕組みを構築している。

##### (3) アセスメントプランによる教育改善の実現

アセスメントプランの実施にあたっては、教育イノベーション課を中心に、計画に基づき各種アンケート、データの収集・分析等を実施し、担当委員会での検証を経て内部質保証委員会に報告され、必要な改善指示が内部質保証委員会から担当委員会、各学科に対して発出されている。改善指示を受けて改善計画が内部質保証委員会に提出されるとともに、実施された結果について報告されている。

また、教学IRが収集したデータは、各学科や部局が教育改善を検討する際に活用できるように、ガルーン(学内グループウェア)内に共有フォルダ(情報プラットフォーム)を置き、情報の共有化を図っている。

内部質保証委員会の審議状況(令和7年度)

令和7年4月18日～4月23日(第1回)

- ・令和6年度 自己点検・自己評価報告書を受けての学科別議論内容について

令和7年5月7日～5月22日(第2回)

- ・令和6年度 自己点検・自己評価報告書について  
外部評価委員からの評価結果を含めた報告書について
- ・令和7年度 事業計画(案)について  
内部質保証委員会による改善指示に基づく事業計画(案)について審議

令和7年6月4日(第3回)

- ・人間科学科理学療法学専攻・理学療学科並びに人間科学科作業療法学専攻
- ・作業療学科の「令和6年度教員資格及び教育内容等の自己評価書」の評価について
- ・内部質保証委員会(3/5)からの改善指示に伴う改善計画について
- ・教育課程編成に係る高梁市・商工会議所との懇談会の開催について
- ・教育課程編成に係る学生との意見交換会の開催について

令和7年8月6日(第4回)

- ・社会科学部経営社会学科のカリキュラム変更に伴う吉備国際大学学則の一部変更について
- ・社会科学部スポーツ社会学科のカリキュラム変更に伴う吉備国際大学学則の一部変更について

て

- ・アセスメントプランに基づく学修成果の可視化について
  - ① 【kiuiドリル】 ベーシック入学前教育教科別全体実績について
  - ② 異動率の推移
  - ③ 学位授与率の推移
  - ④ 国家試験合格率の推移
  - ⑤ 科目履修率：教養科目履修率
  - ⑥ 単位修得率
  - ⑦ 2025年度春学期の入学時アンケートの実施結果について
  - ⑧ 2025年3月の卒業時アンケートの実施結果について

令和7年10月8日(第5回)

- ・学修成果可視化に関するデータの学科での検証結果報告について

令和7年12月3日(第6回)

- ・令和7年度 自己点検・自己評価の実施について
- ・令和7年度の学長からの改善指示について

令和8年2月4日(第7回)

- ・アセスメントプランに基づく学修成果の可視化について  
令和8年3月4日(第8回)
- ・令和7年度の学長からの改善指示に伴う『改善経過報告書』の検証について
- ・アセスメントプランに基づく集計データの検証について

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

アセスメントプラン実施計画に基づく点検と検証が計画通り実行され、内部質保証委員会による改善指示と改善計画策定という教学マネジメントが機能し、内部質保証の体制が確立しつつあることは評価できる。また、教学IRデータをガルーン内の共有フォルダに蓄積して情報の共有化を図ることができたことは評価できる。

#### 〈次年度への課題〉

「吉備国際大学アセスメントプラン」に基づく「アセスメントプラン実施計画」は、見直しを行いながら、確実に実施できるようになっている。また、検証結果から導き出された“課題”を“改善”へと繋げるための見直しも図っている。今後は各委員会での議論を活性化し、内部質保証委員会の改善指示のもと改善案を策定し実行する。

### IRを活用した十分な調査・データの収集と分析の実施

#### 〈今年度の取り組み状況〉

教育イノベーション課で新たに分析するためのツールを導入し、大学が保有する各種データを分析し、教学マネジメント確立に向けて必要な情報提供を進めている。また、報告されたIR情報を改善に活用できるよう、IR情報の共有と一元化を図り、教学IRが収集したデータを共有フォルダ等に蓄積し、各学科や部局がカリキュラムや教育改善を検討する際に、いつでもデータが取り出せるような「情報プラットフォーム」として、ガルーン内に共有フォルダを置き、IRに関するデータを蓄積して情報の共有を図っている。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

調査やデータ収集については、データが蓄積されてきている。

#### 〈次年度への課題〉

今後蓄積されたデータを分析し、改善に繋げることが課題である。

## VII. 地域連携・地域貢献の推進について

### 1. 地域連携・地域貢献の推進

#### 地域貢献推進センター

#### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① 毎月、地域貢献推進センター会議を開催し、高梁キャンパス、南あわじ志知キャンパス、岡山キャンパス、3つの地域連携センターとの情報交換を密に行い、地域連携・地域貢献活動を推進した。
- ② 地域貢献教育研究活動助成金を3件の課題に対して配分し、教員・学生等による地域貢献活動を支援した。
- ③ 令和8年2月14日に、昨年度に引き続き高梁総合文化会館で吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会を開催した。報告会では、吉備国際大学と高梁市から連携事業を報告すると共に、3件の活動事例報告を行った。また、「大学と地域の連携強化に向けて」という演題で、展望講演を行った。
- ④ 各教員から、令和7年度の地域連携・地域貢献活動について報告を提出してもらい、地域連携・地域貢献活動記録を作成した。
- ⑤ 地域連携・地域貢献活動に関する情報を大学ホームページのNewsおよび地域連携センターのページにて、情報発信をした。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

- ① 地域貢献推進センター会議を毎月開催し、各キャンパスの地域連携、地域貢献の取り組み

に関する情報共有をきめ細かく行うことができた。

② 吉備国際大学地域連携・地域貢献活動報告会は今年度で3回目の開催となった。本年度は学生2名を含め市及び大学からの報告及び今後の展望について講演を行い、高梁市と大学の意思疎通が深まった。高梁市石田市長、福本教育長からも今後の展望に賛同する非常に前向きな意見の表明を頂いた。

③ ボランティアセンターをはじめ、各教員、学生サークルが多くの地域連携・地域貢献活動を行った。

④ 地域連携・地域貢献活動に関する情報発信をしているが、学外に加え学内にもさらなる強化が必要である。

#### 〈次年度への課題〉

① 各キャンパス地域連携センターの活性化が課題である。

② 地域連携・地域貢献活動報告会は、今後も継続して開催すると共に、今回の高い評価や成果を引き継いだ積み重ねる運営が必要である。学内他キャンパスからの参加による地域連携活動の推進を検討したい。

③ 地域貢献教育研究活動助成金は令和8年度も継続し、教員間での共有と共に教員が担う地域貢献活動の活性化を目指す。

④ 多くの地域連携・地域貢献活動が行われており、毎年活動結果を報告してもらっているが、活動の整理が出来ていない。次年度以降も活動の整理に取り組む。

⑤ 地域連携・地域貢献活動の発展のために、地域のニーズと学生のニーズ、大学のシーズを繋ぐ仕組みを検討する必要がある。一つの案として他地域に事例がある地域連携センターや地域共創プラットフォームを参考にボランティアセンターを発展させ地域活動のコーディネートや運営の強化を図るなどがある。

### 連携協力協定の締結

#### 〈今年度の取り組み状況〉

① 今年度、自治体との連携協力協定の締結には至っていない。

② 高梁市および南あわじ市と産学官連携に関する情報交換会議を行った。

③ 高梁市、高梁商工会議所と産学官連絡会議を開催した。また、南あわじ大学連携協議会に参加し、情報交換をしている。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

① 自治体と連携協力協定を締結することができなかった。地域との連携を一層推進する必要がある。

② 高梁市および南あわじ市と産学官連携に関する情報交換会議を行ったが、情報交換に終わっており、具体的な施策に結びついていない。

#### 〈次年度への課題〉

大学の教育・研究と地方創生が結びつくよう、産学官民で地域共創プラットフォーム等の設置を関係者に提案する等具体化を推進する必要がある。

### 地域課題解決への寄与

#### 〈今年度の取り組み状況〉

① 定期的に、高梁市、高梁商工会議所と産学官連絡会議を開催し、地域課題解決に向けて協議した。

② 南あわじ大学連携協議会に参加し、情報交換をした。

③ 各教員がそれぞれの専門を元に様々な分野で地域課題解決に取り組んでいる。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

① 定期的に、高梁市、高梁商工会議所と産学官連絡会議を開催し、地域課題解決に向けて協議しているが、具体的な施策の実施までには至っていない。

② 各教員がそれぞれの専門を元に様々な分野で地域課題解決に取り組んでいる。多くの活動に取り組んでいるが、活動の実績評価ができていない。

#### 〈次年度への課題〉

① 地域課題の抽出と課題解決策の検討において、大学と地域の情報交換を密に行い、検討する場を設ける必要がある。現状では、情報交換にとどまっている。

② 各教員がそれぞれの専門を元に様々な分野で地域課題解決に取り組んでいるが、その成果の見える化を検討する必要がある。

## 地域連携・地域貢献活動の推進

### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① 「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部、全学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組んだ。
- ② 半数以上の専任教員が地域連携・地域貢献に取り組むという目標に対して、現状、半数以上の専任教員にまでは至っていない。実施した地域貢献活動については、各教員から地域連携・地域貢献活動について報告を提出してもらい、地域連携・地域貢献活動記録を作成した。
- ③ ボランティアセンターを核として、地域貢献ボランティア活動を推進した。
- ④ 地域貢献教育研究助成金で、3件の教育研究活動を行った。
- ⑤ 大学コンソーシアム岡山事業「吉備創生カレッジ生涯学習講座」へ4講座を提供した。また、6月1日(日)に開催された「日ようび子ども大学」、7月12日(土)の奉還町商店街の「エコナイト」へ参加した。
- ⑥ 高大連携活動として6月8日(日)に英語スピーチコンテストを開催した。また、高梁高校と新たな連携事業に向けての検討をしている。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

- ① 「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部・学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組み、多くの活動を実施することができた。実施した地域貢献活動については、各教員から地域連携・地域貢献活動について報告を提出してもらい、地域連携・地域貢献活動記録を作成した。
- ② ボランティアセンターを核として、地域貢献ボランティア活動を推進し、多くの学生がボランティア活動に参加した。
- ③ 地域貢献教育研究助成金で、3件の教育研究活動を行った。
- ④ 大学コンソーシアム岡山の事業「吉備創生カレッジ生涯学習講座」「日ようび子ども大学」「エコナイト」へ参加した。
- ⑤ 英語スピーチコンテストには21名の高校生が参加した。

### 〈次年度への課題〉

- ① 引き続き「地域連携・地域貢献の基本方針」を基にして、全学部・学科が地域連携活動及び地域貢献活動に取り組む。
- ② 地域貢献教育研究助成金は令和8年度も継続し、教員が担う地域貢献活動の活性化を目指す。
- ③ 多くの地域連携・地域貢献活動が実施されており、毎年活動結果を報告してもらっているが、活動の整理が出来ていない。次年度以降も活動の整理に取り組む。
- ④ 地域連携・地域貢献活動の活性化のために、地域のニーズと学生、大学のシーズを繋ぐ仕組みを検討する必要がある。例えば、他地域に事例がある地域連携センターや地域共創プラットフォームを参考にボランティアセンターを発展させ地域連携・地域貢献活動のコーディネートや運営の強化を図るなどの案がある。

## 2. 大学の持つ知の地域への還元

### 公開講座の開催

#### 〈今年度の取り組み状況〉

高梁キャンパスでは、まちなかゼミナール(前期)8講座、(後期)9講座を開講した。また、南あわじ志知キャンパスの地域創成生涯学習講座を9講座開講した。開講内容としては、体や心の健康促進や食についてなど、高齢化する地域のニーズに沿った、地域貢献講座となっている。また、国際化については、まちなかゼミナール前期・後期ともに英語の講座を開講した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

本年度は、26講座を開講することができた。開講講座の内容については、体や心の健康促進や食についての講座など、高齢化する地域のニーズに沿った講座を開講したことから、昨年度に比べて受講者が増加した。

### 〈次年度への課題〉

次年度も継続して公開講座を開講する。また、地域のニーズに合わせた講座を開講するとともに、語学や国際化、街づくりに特化した講座など、さらに「地域連携・地域貢献」および「国際化」に関係した内容の開講を検討する。

## 出張講義等

### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① 本学ホームページにて、高等学校向けの出張講義一覧の掲載を継続して実施している。
- ② 国際理解教育、探究学習への支援など、小・中・高等学校と連携した授業を実施した。
- ③ 10月29日(水)、岡山キャンパスで、高校生達が大学の英語多読とディスカッション英語の授業を体験した後、恒例のハロウィンパーティーにて留学生を交えた交流活動を実施した。
- ④ 11月5、6日(水、木)には、高梁キャンパスにて、市立高梁中学校の職場体験(職場探求学習高梁JOB SEARCH)を受け入れた。
- ⑤ 令和8年2月19日(木)に有漢学園の中学生と本学留学生との交流会を学生会館KIUBで開催した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

- ① 高校からの依頼により出張講義を行っており、ほぼすべての依頼に対応することができた。
- ② 出張講義以外にも、中高生が来学し、大学生との交流活動を実施することができた。

### 〈次年度への課題〉

- ① 来年度も高等学校の希望に合うような出張講義を継続する。
- ② 高等学校探究授業への支援方法を検討する必要がある。
- ③ 留学生の学びの場として、小中高生への国際理解教育、英語教育などを推進する。

## 3. 地域貢献人材の育成

### フォーラム等の開催

#### 〈今年度の取り組み状況〉

学部単位でフォーラム、講演会等を主催して開催する目標を立てたが、実施することができなかった。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

学部単位でフォーラム、講演会等を実施することができなかった。

#### 〈次年度への課題〉

各学部の意見を踏まえ学部単位でのフォーラム、講演会等開催や他のより効果的な地域貢献人材の育成に関する取り組みを目指す。

### 地域課題解決型授業

#### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① カリキュラム改定に合わせて、全学科が地域課題解決人材を育成する授業を2科目以上、専門教育科目の中で開講する目標であったが、実施できなかった。
- ② 「地域連携・地域貢献」、「国際化」の2つの取り組みのもと、カリキュラム改正に併せ、全教科での地域連携・地域貢献と国際化との関連を明示する目標であったが、実施できなかった。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

全学科が地域課題解決人材を育成する授業を2科目以上、専門教育科目の中で開講する事はできなかった。「地域連携・地域貢献」、「国際化」の2つの取り組みのもと、カリキュラム改正に併せ、全教科での地域連携・地域貢献と国際化との関連を明示することはできなかった。

#### 〈次年度への課題〉

今年度取り組んでいる現在のカリキュラムにおける各授業での「地域連携・地域貢献」、「国際化」の組み込みにおける課題や展望を整理し、今後の方向を検討する。

## 地域貢献人材育成プログラム

### 〈今年度の取り組み状況〉

地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」を学生および社会人向けに開設する目標であったが、実施できなかった。履修証明プログラムに関する規程の制定と履修証明プログラムで「地域貢献人材育成プログラム」を開設することを検討した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

地域課題解決の担い手を養成・輩出する「地域貢献人材育成プログラム」を開設することはできなかったが、来年度から、履修証明プログラムを開設する予定である。市役所や地域事業所など地元の官民の取り組みの現状や意向の把握が十分には行えていない。

### 〈次年度への課題〉

来年度から、履修証明プログラムの受講者を受け入れる予定であることから、受け入れ体制を整備する必要がある。加えて、市役所や地域事業所など地元の官民の取り組みの現状や意向の把握に努め「地域貢献人材育成プログラム」の開設を検討する。

## VIII. 国際化の推進について

### 1. 国際化に向けた科目内容の充実

#### 国際化に向けた英語学習の充実と異文化・国際事情理解の推進

##### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① 2022年度から全学共通教養科目として導入した人間力育成科目群(きびこく学、SDGs概論、グローバルスタディーズ入門、課題解決演習)を実施した。
- ② 外国学科以外の学科においては、複数の英語のネイティブスピーカー(外国学部専任教員と非常勤講師)による英語教育(必修3科目、選択3科目)を実施した。また、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」について、本年度より科目内容を検討し充実を図った。
- ③ 英語以外の外国語や文化を学ぶ科目として、「中国語と中国文化Ⅰ・Ⅱ」、「フランス語とフランス文化Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語とドイツ文化Ⅰ・Ⅱ」を開講した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

英語学修を中心として、複数の言語や文化について学ぶことができる教養科目群を開講していることは評価できる。ただ、必修科目を除いて履修者が少ないため、今後積極的に取り組む学修態度の涵養が必要である。

##### 〈次年度への課題〉

外国語学部以外の学部(高梁キャンパス・南あわじ志知キャンパス)の英語教育については、語学実践力養成に向けた教養科目の語学教育について見直しを検討していく。併せて本学の教育の特色である「地域連携・地域貢献」と「国際化」を軸としたグローバル教育プログラムを検討する。

#### 海外留学・短期研修の促進

##### 〈今年度の取り組み状況〉

- ① 海外留学・短期研修は、主に外国語学部の学生を対象とするプログラム(スタディー・アブロードⅠ～Ⅳ)を実施している。また、令和8年度からの経営社会学科及びスポーツ社会学科のカリキュラムに短期留学の科目が追加された。
- ② アメリカ・ブラジル研修団をコロナ以前と同様のスケジュールで受け入れることができ、学生との交流も積極的に行われた。また、ライト大学研修も再開することができ、3名の学生及び1名の教員を派遣した。

##### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

海外留学・短期研修は、外国語学部に加えて社会科学部にも導入された。3名の参加枠が埋まるか心配したが、1名が研修先変更に応じたため、結果的に催行することができた。今後は、他学部においても参加が可能なプログラムの促進を図る必要がある。

### 〈次年度への課題〉

海外留学・短期研修は、外国語学部に加えて社会科学部も可能となった。今後は他の学部についても海外留学・短期研修プログラムを充実させる必要がある。併せて短期留学・研修先の確保及び参加者の募集方法を検討する必要がある。

また、1人でも多く参加者が増えるよう、研修体験談等の発表の機会を増やし、周知を図ることが重要である。

## 留学生に対する学習支援の充実と生活環境の整備

### 〈今年度の取り組み状況〉

① 留学生に対しては、高梁キャンパスの日本語科目クラスを、本年度から、よりきめ細かい指導が行えるよう、3クラスから5クラスに増やした。1クラスあたり20名以下の少人数制に変更することで、日本語教育の充実を図った。また、正課の日本語関係科目のほか、ラーニングサポートセンターで「日本語能力試験N2対策講座」を春学期・秋学期に毎週2コマ開講して日本語の学修を支援するとともに、日本人学生と留学生が自由に話し合える「おしゃべりカフェ」を毎月開催して国際交流を深め、グローバルな視野で考える力を育てている。留学生の日本語能力試験の今年度第1回目学内申請者は42名(N2-30名、N1-12名)、うち合格者はN2が1名、N1が2名であり、対象者に補助金を支給した。

② 生活基盤の安定化を図るための種々の支援(市民生活・住宅・アルバイト情報の提供等)を行った。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

種々の日本語学修の機会を用意し、留学生の日本語能力の向上に努めたことは評価できる。また、生活基盤の安定化を図る各種の支援についても評価できる。日本語能力試験(冬期)を受験した学内申請の留学生が全員不合格となってしまった。今後は、留学生のニーズを把握し、的確な情報提供を行う必要がある。

### 〈次年度への課題〉

早期のN2の取得者が増えるように検討していく。生活環境の整備については、生活基盤の安定化を図る支援(市民生活・住宅・アルバイト情報の提供等)の促進を図る。また、留学生の母国語対応による支援体制の充実を図るとともに、引き続き留学生のニーズを把握し、学生が求める情報を提供していきたい。さらに、留学生の母国語対応による学修支援体制としては、今後は、他国(インドネシア、ベトナム、ネパール等)の言語への対応を検討する必要がある。次年度から学内申請を取りやめ、個人申請のみにすることで受験者が増えると期待できる。

## 国際社会で活躍できる職能教育と留学生に対する就職支援

### 〈今年度の取り組み状況〉

1年次必修科目「キャリアデザインⅠ」において留学生クラスを開講し、進路選択に繋がる自己理解やコミュニケーション力の向上を図ってきた。また、行政書士や留学生対象の就職支援企業のスタッフを外部講師として招聘し、日本の生活や法律、就労制度について正しい情報や知識を教授した。

また、令和6年度から取り組んでいる「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」に基づく積極的なキャリア教育や情報提供、就職ガイダンスを行うとともに、就職に関する個別面談対応を強化した。特に3年次からは、本格的な就職活動に向けて、自己分析、エントリー方法、履歴書の書き方、面接対策について学習する機会を設けるとともに、学内における業界研究・インターンシップ等説明会、企業単独説明会への積極的な参加を促した。

### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

1年次必修科目「キャリアデザインⅠ」において招聘した就職支援企業のスタッフによる講義は大変わかりやすく、留学生にとって有意義な内容であった。日本における生活のみならず、卒業後の進路や就労方法の選択について考える機会となった。

また、「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」は、教務課、経営社会学科担当教員と連携して進め、対象となった学生の職業意識や就職活動に関する知識・技術の向上に繋がった。

キャリアサポートセンターでは、キャリアカウンセラーの資格をもつ外国人スタッフを中心に、留学生からの多様な相談に応じ、各種書類の添削や面接練習にも対応してきた。留学生からの相談や事前予約が増加した。

### 〈次年度への課題〉

引き続き、キャリア教育科目「キャリアデザインⅠ」の留学生クラスにおいて、コミュニケーションをはじめとする職能教育や就職支援を強化するが、日本語の理解が不十分な学生も多く、授業前後における学科教員の支援が必須である。

「KIUグローバル人材養成留学生就職促進プログラム」の対象学生が就職する年になるため、日本企業への就職を支援すると共に、プログラムの成果と課題を検証する必要がある。

## 2. 国際交流の充実

### 日本人学生と留学生の相互理解の深化による国際人の育成

#### 〈今年度の取り組み状況〉

10月に国際フェスティバル「1Day Asia in たかはし」を開催した。実行委員として準備から当日の運営まで日本人学生と留学生が協働し、盛況に終えることができた。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

留学生と日本人学生が同じ目標を持ってひとつのイベントに取り組むことで、より一層、相互理解を深めることができた。

#### 〈次年度への課題〉

アルバイトで多忙な留学生が多いことから、プロジェクトメンバー確保のためには、準備や打ち合わせの時間を調整することが必要である。

### 外国人との各種の交流活動を通じた国際感覚の醸成

#### 〈今年度の取り組み状況〉

経営社会学科大西研究室が「有漢イングリッシュキャンプ2025」を開催した。小学生から大人まで幅広い世代が参加し、地域と留学生・日本人学生が一体となって学び、交流を深めた。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

有漢学園の中学生と留学生が英語でコミュニケーションをとりながらゲームをするなどして交流を図ることができた。留学生も母国の音楽や踊りでその魅力を伝えていた。

#### 〈次年度への課題〉

留学生の参加者を増やすことができれば、さらに多様な交流を図ることができる。今後は大学全体で幅広く取り組んでいきたい。

### 地域社会のグローバル化への貢献

#### 〈今年度の取り組み状況〉

国際フェスティバル「1Day Asia in たかはし」を開催した。場所を高梁総合福祉センターにしたことで、多くの地域住民や在住外国人の参加があった。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

本学の留学生の存在を多くの市民に知ってもらうことができたことは大きな成果であった。母国の文化を留学生と市民が互いに紹介しあって交流を図ることができ、相互理解が進んだ。

#### 〈次年度への課題〉

地域のイベントへの積極的な参加、母国の音楽や踊りなどを紹介する等、留学生の活躍の場を広げることで、学生自身の向上にも繋がると思われる。

### 国際交流プログラムの強化と海外の大学等との連携強化

#### 〈今年度の取り組み状況〉

アメリカ・ブラジルの訪日文化研修団を受け入れ、学生との交流を図った。夏期ライト大学研修へ3名の学生が参加した。

#### 〈今年度の結果についての点検・評価〉

国際大学らしい異文化交流ができたことは、学生にとっても貴重な経験となった。

**〈次年度への課題〉**

研修団と学生がペアとなって行動する機会を設けて活用したい。

# 九州医療科学大学

## I. 建学の理念・教育目標の具現化に向けて

### 1) 大学の使命・目的及び令和7年度の教育研究目標

#### ・九州医療科学大学の使命・目的

九州医療科学大学は、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、延岡市との公私協力方式で1999年の開学以来、27年目となる。

地域に根差した大学として、宮崎県北エリアの人材の育成、地域活性に取り組んできたが、令和6年度に校名を「九州保健福祉大学」から「九州医療科学大学」に変更し、これまで以上に地域に密着した大学として、建学の理念の実現を使命として、国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用力を持つ人格を陶冶することを目的としている。また、一人ひとりの学生が自分自身の能力と可能性を信じて、夢に向かって努力を続ける事が出来る様に大学全体でサポートしていく事を目標としている。

#### ・令和7年度の教育研究目標

本学では、『4つのenであなたの夢をカタチにします』をブランドビジョンに掲げ、主に医療・福祉に関して広く社会や人々の健康と幸せをプロデュースできる人材を育成することを目標に、学びに対する可能性を応援できる大学を目指している。

**「学びを応援」**: あなたの学びには無限大の可能性が 있습니다。一人ひとり、一つひとつの希望や可能性を応援し、未来のカタチとして共に創り上げていきます。【高大連携・入学前教育（高校からの学びを繋ぐ）、チューター制度（学修指導・学生相談）、学修支援システム（マイステップ・学修ポートフォリオ）、充実した資格試験対策、キャリアサポート（エンロールメント・マネジメント）】

**「学びをエンジョイ」**: 本学にはさまざまな専門家がいます。医療福祉の専門職としてだけでなく、いろいろな学びと経験から、学生生活を、さらに未来をエンジョイできるよう、サポートします。【医療福祉連携講座（異職種相互理解）、日向国体験学習（地域に飛び出せ）、専門的な学び（実習・演習）、卒業研究（研究発表・学会発表）、他大学連携（コンソーシアム）】

**「出会い<<縁>>をカタチに」**: 時には困難に直面することもあるでしょう。あなたとの出会い（縁）を大切にし様々な経験があなたの未来に役立つ、そんなステージを提供していきます。【ゼミ・研究室（ともに学ぶ）、サークル・部活（ともに励む）、学友会（学生委員会・学園祭実行委員会）、大学応援協議会（地域協力）、海外研修・留学プログラム】

**「地域のエンジンになる」**: 我々が目指す教育や人を育てる理念を共有していただける地域の方々と共に、これから直面する、医療・福祉の重要性そして可能性をカタチとして創造できると信じています。【ボランティア（地域貢献）、地域医療福祉（臨床現場との連携）、QOL 研究機構・がん細胞研究所（社会貢献）、公開講座・シンポジウム（文化的貢献）、災害対策（災害ボランティアセンター設置運営・災害支援拠点）】

## Ⅱ. 内部質保証体制の確立に向けて

### 1) 内部質保証のための組織の整備

本学では、内部質保証体制の確立に向けて、令和5年度から新たに内部質保証委員会を立ち上げ、自己点検・自己評価委員会と連動することで、内部質保証の実質化を促進し、機能性を確保できるよう組織整備を行った。

令和7年度は、内部質保証委員会からの改善意見に基づき、具体的な指標を用いた自己点検・自己評価を実施するなど、内部質保証体制の確立に努めた。

今年度(令和7年度)からは、昨年の内部質保証委員会や自己点検・自己評価委員会での協議・検討を踏まえ、各種委員会や各部会の体制を見直すことで、更なる体制確立に向けた組織整備に着手できるよう、学内協議を進める計画である。

令和8年度に向けた組織整備を目標として、内部質保証委員会からの提言を中心に自己点検・自己評価委員会の各部会や各種委員会で、点検・評価の関係見直しを実施している。各部会や各種委員会の相互関係に考慮し、更なる体制確立に努めている。

最終的には、教育の根幹となる委員会組織として『教学マネジメント推進委員会』の整備計画がなされ、教育IRの推進を含めた更なる教育基盤整備を行うことができている。その他の委員会組織の改編・見直しを継続的に行う予定にある。

なお、これら改革を推進する中で、令和7年度に受審した日本高等教育評価機構による機関機関別認証評価において「大学評価基準に適合している」と認定されている。

### 2) 内部質保証のための自己点検・自己評価の実施

九州医療科学大学では、昨年度(令和6年度)より、自己点検・自己評価委員会総会開催後に内部質保証委員会を開催し、本学の自己点検・自己評価が十分になされているかを協議・検討し、自己点検・自己評価委員会の各実施部会等に向けて改善意見を提出することとしている。

各実施部会では、内部質保証委員会より提出された改善意見に基づき協議・検討し、所管する各種委員会に改善指示を行うことでPDCAサイクルを確立し、本学の更なる点検・評価に繋げる計画である。

令和7年度も引き続きこの体制を維持・確立することで、内部質保証のための自己点検・自己評価の実施を推進する。

令和7年9月24日に開催された内部質保証委員会において、自己点検・自己評価に関する改善指示内容が協議・決定された。更に効果的な自己点検・自己評価を実施する為、各部会や各種委員会の関係性を見直すことで、「令和7年度の自己点検・自己評価委員会報告書」において、現状により則した報告書を作成することが指示され、4月25日(土)開催の総会において外部評価員(延岡市教育長・延岡商工会議所会頭)を招き、本学の取り組みに対し講評を得ている。

### 3) 内部質保証の機能性確保の取組

九州医療科学大学では、昨年度(令和6年度)より、内部質保証委員会を中心とした新たな内部質保証体制の確立を目指す事としているが、その機能性確保の為、組織体制の整備・確立に留まらず、学生や学外関係者からの意見や要望、評価などを内部質保証に活かせるよう、教育イノベーション委員会等と協力して、アンケートや意見交換会などを実施する。

更に、その分析結果を教育研究や学修環境整備に反映することで、新たなPDCAサイクルの仕組みを構築し、内部質保証の機能性を確保する。

アンケートや意見交換会などの結果をもとに、関係委員会や中核センター会議などで確認・協議された内容を内部質保証委員会でも情報共有することで、自己点検・自己評価の更なる一助としている。

### Ⅲ. 学生支援の充実

#### 1) 学修支援の強化

1. 中核センター教育開発部門を中心に、教職協働によるエンロールメントマネジメントに関する方針・計画・実施体制を適切に整備し運営する。

- ・全学的なチューター制度を土台に、学修支援システム（ユニパ）の積極活用により、学生個々の支援体制を強化する。

チューター制度をより機能的に昇華させ、教職協働体制を一層強化するために、学生の学修状況や生活上の情報を一元的に集約し、教職員間で共有する体制を確立させ、部署や担当の垣根を越え大学全体として情報を活用し、組織的に学生を支援する体制強化の協議を、中核センター教育開発部門会議にて協議し、アカデミック・アドバイジング推進機構の創設の運びとなった。

- ・退学防止の観点から、授業の連続欠席者情報を教職員が共有し、早期対応を図ることで、未然に退学を防止する。

本年度退学者は19名（昨年度19名）であり、連続欠席に加え累計欠席数を共有することで、早期対応を図ったが、減少にいたらなかった。しかしながら、連続欠席者情報の配信から早期対応への流れを作ることができた。一方で、除籍者5名（昨年度3名）は学費納入時期を経過した後に異動となったことから、より部署間の連携を図る対応が必要であると考ええる。

- ・学生のキャリア開発を重点課題と掲げ、在学中のあらゆる活動を可能な限り可視化（ユニパ、マイステップの積極活用）し、学生の満足度向上に努める。

学修成果の可視化を目指し、ユニパを活用した学修ポートフォリオ（教務課）・マイステップ（学生課・キャリア）の取り組みに努めており、昨年度から対象者に対し、卒業時アンケートを実施し、本取り組みについては有効性を今後検証予定である。

また、外部の標準化されたアセスメントテスト（GPS-Academic、ベネッセi-キャリア）の活用について、教育イノベーション課が中心となり同社が企画するセミナー等に積極的に参加することで、学修成果の可視化の方向性や、学生指導及び学生自らの成長実感の確認に繋がる検討を行っているところである。

2. 更なる学生への学習支援体制を構築する為、学科単位でSAによる授業補助やメンターによる学修補助などの体制整備・導入を検討する。

- ・英語村及びボランティアセンターを機能拡充し、学習支援体制を充実する。

英語村及びボランティアセンターについては、昨年度より更なる学生の利便性や運用の効率化を勘案しているが、昨年度に比べて利用率も向上していることから、学修支援体制の充実に繋がっていると思われる。

3. 教務課が中心となり教室管理を行っており、出欠管理システムを導入し、教職協働により適正に管理運営を行っている。今後については、経年劣化に伴う改修等も見据え、将来計画を踏まえた実現可能かつ実効性のある学修環境を提供する。

経年劣化に伴う改修等の必要性は喫緊の課題となっている。必要な改修は学生満足度の向上にも繋がると考えられ、学生アンケート等で得られた要望を適切に判断し、フィードバックすることで、学修意欲の向上にも反映されるものと考えている。

4. 学生アンケートの実施と内容改善に努め、得られた情報を適切に分析・検討し課題の明確化を行う。

- ・授業アンケートの回答促進を行い、毎年度の回答率向上に取り組む。
- ・授業アンケートを含めその内容精査に努め、効果的に学生の意見を反映できる体制確保に取り組む。

学生に対して行う各種アンケート調査を「アンケート実施計画」として取りまとめ、学生周知を行なっている。アンケートにより得られた学生の動向及びその意見等を適切に分析し、デジタルサイネージ等で公表することで、学生へのフィードバックにも努めている。また、近年取り組んでいる授業アンケート結果に対する教員コメントバックにより、教員自らのFD（授業内容・方法を改善し向上させるための取り組み）ともなり、教学IRが機能的に稼働しつつある。

5. 本学では、学科等毎に進級規程を定め学生便覧において周知徹底を図り、厳正に適用することで進級・卒業率の向上に取り組んでいる。単位認定評価においては、過去の成績評価を分析（IR）し評価の平準化にも努める。

本学では、これまで大学全体及び薬学科においてアセスメントポリシーを策定し、運用を行ってきた。

本年度、機関別認証評価の实地調査を終え、薬学科以外の各学科におけるアセスメントポリシーの整備が喫緊の課題であると認識し、中核センター教育開発部門会議が主体となり、未整備学科に対しアセスメントポリシー作成の指示を行った。これを受け、各学科においてアセスメントポリシーを作成し、今後、各学科において策定したアセスメントポリシーに基づき、教育の質保証に向けた運用を行っていく予定である。

6. 自ら考え行動できる専門職人材を養成する為に、学部学科を横断した教養科目の開発に取り組み、専門的な知識と技術の実践に必要な、思考力・判断力・コミュニケーション能力、及び国語力等の基礎学力向上に取り組む。

- ・すらら（e-learning システム）の効果・検証を含め、基礎学力向上に向けた取り組み強化について全学的な検証を行う。
- ・大学共通基礎科目など大学独自科目の推進、強化を行う。

「国語力強化」に対する方策の一つとして『すらら』に取り組む、1年次当初及び前期末の国語統一試験を完了した。学科毎の取り組みに対する評価を行うと共に、過年度実績の分析を行っているところであり、今後さらにその検証（評価）に努める予定である。

また、大学のブランド化も念頭に改編した大学共通基礎科目の運用が4年目を迎え、令和8年度に向けたカリキュラム改正予定はないが、運用方法（シラバス内容）については改善検討を行う予定となっている。

## 2) キャリア支援の強化

一人ひとりの夢の実現に寄り添い、時代の変化を先取りしたキャリア支援を徹底することで、「就職率100%」並びに修学支援新制度における「就職・進学率90%」を目指し、以下の内容を重点的に実施する。

- ① 個別指導重視の支援を切れ目なく継続し、学生に寄り添う支援の実現

ハローワーク出張相談窓口の予約状況は常に満席であり、キャリアコンサルタントの有資格者が学生個々の希望を詳細に聞き取り、切れ目なく支援している。また、キャリアサポートセンターにも有資格者を配置し、個別指導重視の支援を実施している。

最終の就職率は98.3%であった。

- ② 企業の採用担当者との接点を増やし、就職先選択の幅を広げる支援

来客時に得た情報（求人職種、人数、試験日程など）を課員に共有することで、来室する学生に提供する就職情報量が増した。また、来客のアポイントも積極的に受け入れ、対面、オンライン問わず多くの企業との接点を持てるよう調整している。さらに、薬学科5年を対象に業界研究会を開催し、計83事業所に参加いただいた。加えて、動物生命薬科学科対象の研究会では5事業所に参加いただいた。

### ③ キャリア教育の充実と自立的なキャリア形成支援

薬学科については、キャリアサポート委員会を中心に就職情報関連企業と連携し、学生と企業とのミスマッチを防ぐ事を目的に定期的にガイダンスを実施している。また、ガイダンス実施対象を低学年（1, 2年）まで広げるかについては、今後、検討していく予定である。

低学年を中心にキャリア意識の醸成を図り、自分のキャリアデザインを描くために以下の内容を重点的に実施する。

#### ① インターンシップやオープンカンパニー情報の提供

掲示板やメールを活用し、全学生に周知していることに加え、インターンシップ情報をまとめたファイルもセンター内に設置し、いつでも確認できるよう準備している。

#### ② 「私の活動履歴」の入力促進

就職活動で使用する履歴書の作成に役立つよう自身の活動記録をユニバーサルパスポート内に「私の活動記録」として残すよう指導している。また、定期的に入力促進のアナウンスを配信しているが、入力率は3割に留まっている状況である。

#### ③ 社会人との対話を通じた業界・職業理解の促進

10月25日（土）に地元企業6社に参加いただき、WorkCaféのべおかを実施した。15名の学生が参加しアットホームな雰囲気の中、情報交換や意見交換を行うことができた。低学年の参加が多く、学生からは今後の就職活動において有益な機会であったとの意見を多く得ることができた。

学生に寄り添った丁寧な対応を徹底し、誰もが使いやすいセンターを目指し、以下の内容を重点的に実施する。

#### ① オンライン相談・予約システムのユーザビリティ向上

キャリアの公式LINEのQRコードを窓口に準備し、気軽にアクセスできるよう環境を整備した。また、利用についても各種の相談から履歴書の添削や求人情報の提供など幅広く活用している。

#### ② 個人情報の厳格な管理体制の構築

学生面談は基本的にカウンターで実施するが、状況に応じて面談室を利用している。また、パソコン画面やデスク上の書類が学生から直接確認できないよう配慮している。さらに、各種の相談内容が周囲に漏れ聞こえる事を防ぐ事を目的に、BGMを流している。

#### ③ 情報提供ツールの活用

本学が契約を結ぶ求人検索NAVIの他、ハローワークインターネットサービスやマイナビなど、多くの求人が掲載されているサイトを広く紹介している。また、企業が学生のプロフィールを検索し、興味を持った学生に直接オファー（スカウト）を送る「逆求人」の仕組みを取り入れたオファーBOXなども活用している。

## 3) 学生サービスの充実

### ・学生の意見・要望への対応の強化

学生サービスの向上ならびに今後の大学運営や教育研究の改善に反映させることを目的とし

て、令和6年度同様に学修環境や学生生活について大学（学長ならびに関係部署）と学生との意見交換会を開催して学生の意見・要望を聞き、改善に繋げる。

令和7年7月10日（木）に「学長と学生との意見交換会」を開催した。学生から、友人とのコミュニケーションに関することや施設・設備に関する要望など、さまざまな意見が出された。多くの意見が出された中で『フィットネスルームの窓ガラスに目隠しを設置してほしい』という要望については、11月21日（金）にブラインドカーテンの設置工事が完了し、利用学生からは『外からの視線を気にせず、快適にトレーニングができる』と好評を得ている。

### ・学生生活の安定のための支援

心身に関する健康相談や経済的支援をはじめとする、学生生活に関する相談や意見、要望の把握・分析については、関係各署との連携体制のもと学生の多様性に応じて適切に対応する。

また、相談しやすい環境づくりと相談スキルの向上を図るために、学生支援（奨学金、保険含む）のスキル向上のための各種研修会等へ積極的に参加をする。

学生がパニック発作や不安を感じた際に安心して落ち着ける空間として、令和8年1月に学生ラウンジにカームダウンルームを設置した。

日本私立大学協会主催の「学生生活指導部課長相当者研修会」に職員2名、また「九州地区学生指導研修会」に職員1名が出席し、他大学における取り組みや合理的配慮への対応、事件・事故が発生した際の対応などについて、積極的な意見交換を行なった。研修内容については、朝礼の時間を活用し、事務職員を対象としたフィードバック（SD研修会）を実施した。

### ・課外活動の活性化（クラブ活動）

全体的にコロナ禍前の活動に戻りつつあるが、以前のような活気を取り戻せていないのが現状である。引き続き、学生委員会や学祭実行委員会のメンバーの確保をはじめ、体育部会や文化部会でのメンバー増員にも大学側からも支援を進めるとともに、参考例として過去のイベントに関する情報提供を積極的に図り、全体の活性化を図る。

令和7年10月25日、26日の2日間、千葉県鴨川市で開催された第54回秋季全日本学生サーフィン選手権大会において、JPSA チャレンジスペシャルショートウィメンクラスで、スポーツ健康福祉学科2年の女子学生が優勝した。

また、軽音楽部においては、学生が主催となって延岡市で音楽活動をしている団体とともに「のべおかロックフェス」と銘打ったイベントを野口記念館で開催し、学生・教職員、多くの市民を元気づける取り組みであったと高評価を得た。

### ・課外活動の活性化（地域社会との連携）

一般公開に加えて、延岡警察署、延岡消防署、自衛隊の参加協力もあり、単なる学園祭ではなく、災害時の対応についての意識向上を図る学園祭を開催することができた。地域住民の方も多く来場して、学生との直接対話やイベントへの参加をすることにより、本学への理解をより一層深められた。学園祭だけでなく、地域の催事等の参加についてはサークル団体をはじめとして、積極的な情報提供を継続する。

『活気』という点では、コロナ禍以前と比較すると上昇傾向がみられない現状は否めない。しかし、そのような状況のなか、『九州医療科学大学を盛り上げる』という強い思いを掲げた学祭実行委員会および学生委員会が、令和7年11月2日、3日に第27回九保祭を開催した。学生によるステージ企画に加え、お笑いタレントやアーティストを招いた2日間にわたるステージライブを実施し、学生と地域住民との交流を深めることができた。

## 4) 学修環境の整備

### 施設・設備の整備

学修環境の更なる整備を実施し、学生及び教職員の満足度を図る。

結果状況は以下のとおりであり、滞りなく実施することができた。

①4号棟動物飼育室空調入替（学修環境の充実）	52,800千円（実施済）
②救急救命コース機器備品28品目70点購入（実習設備等の充実）	10,541千円（実施済）
③情報処理室のパソコンリプレイス（学修環境の充実）	15,400千円（実施済）
④入退館管理システム（全棟）更新工事（危機管理体制の充実）	12,848千円（実施済）

## IV. 教育内容の改善・向上

### 1) 教育課程の見直し

#### 1. 教育課程の見直し

ステークホルダーへの3つのポリシーの周知に努め、学科で定める人材育成の理念に沿った体系的な教育課程編成に努める。

・汎用的能力となる「問題解決能力」の検証を目的に、外部の標準化されたアセスメントテスト（GPS-Academic、ベネッセi-キャリア）を令和6年度入学生より開始しており、高学年時での受検結果との比較により、教育課程との整合など見直し検証に活用する。

外部の標準化されたアセスメントテスト（GPS-Academic、ベネッセi-キャリア）の導入2年目となる本年度、昨年度受検者との比較を行うなど、学科の特色も反映された結果となり、教育活動への活用についても示唆された。次年度は同一学生の2回目受検が控えており、学科学生の経年比較が効果的に行われるよう、受験時期について検討を進めているところである。

・ブランドビジョンの実現に向け、教養教育（基礎科目、初年次教育科目）の充実並びに促進に努める。

【前述再掲】大学のブランド化も念頭に改編した大学共通基礎科目の運用が4年目を迎え、令和8年度に向けたカリキュラム改正予定はないが、運用方法（シラバス内容）については改善検討を行う予定となっている。

#### 2. 教授方法の改善・アクティブ・ラーニングの促進に努め、Small Group Discussion (SDG) の積極的实施など、教育効果の向上に努める。

授業改善に向けたFD活動の一環として、教員相互の授業参観制度強化に取り組み、6月期と12月期を強化月間として推進している。また、取り組みの形骸化を防ぐため、参観報告書を本年度後期より改訂し、参観により得られた効果的な取り組みを共有することで、大学または学科等での相乗効果を期待している。

#### 3. 学修成果の把握・可視化の推進・3つのポリシーを踏まえた検討として、ディプロマ・サプリメントやGPAの利活用について協議し、学修成果の把握・可視化に努める。・教学IRの推進に努める。

「成績評価の平準化」「授業アンケートの見直しとフィードバック方法の検討」

昨年度に引き続き、成績素点分布及びヒストグラムを作成し学科へ情報提供を行い、「成績評価の平準化」に向けて検討を始めている。

「教育課程編成における学生及び社会（地域）等からの意見への反映」

卒業時並びに卒業生アンケート結果の分析から、基礎教養及び初年次教育に対する意見が反映

されるよう、継続的な取り組みを行っているが、カリキュラム変更を伴う改正検討には至っていない。しかしながら、シラバス構成については課題のある科目（インターンシップ、医療・福祉連携講座）もあり、次年度に向けた協議検討を行う計画にある。

また、日向国地域論並びに同体験学習など、地元自治体及び商工会などとの連携により構成される科目を含め、意見聴取並びにその反映に努めており、延岡市だけではなく、五ヶ瀬町からの協力を得ながら実施することが出来た。今後は宮崎県北地域の知の拠点としての役割を明確に示し、他地域との連携強化にも努めたい。

さらには、キャリアサポートセンターが中心となり実施する就職先となる企業等との連携協議会においては、GPS-Academic に対する取り組みに一定の興味・関心が得られたため、入学希望者に対する他大学との差別化に加え、就職先となる企業・施設等への特色（ブランド）の明示等にも活用できることが示唆された。

## V. 教育研究活動の推進

### 1) 教育研究活動のための機能性確保の取組

本学の教育研究活動において、学長が適切なリーダーシップを発揮しながら管理運営が行える体制整備を進めることで、教育研究活動のための更なる機能性確保に取り組む。

教育開発部門や研究推進部門を中心とした適切な組織による機能性の確保に加え、学長諮問会議での協議や学長裁量経費での独自事業の推進など、学長のリーダーシップによるマネジメントを推進する事で、既定の教育研究活動に捕らわれない独自の教育研究活動に関しても機能性の確保を目指す。

### 2) 教員・職員の研修・職能開発のための取組

#### 1. FDの実施

中核センター教育開発部門が中心となり、FD研修の活性化を図り、学部・学科での実施サポートを教職協働により行う。

- ・全体FDに加え、各学部・学科でのFD開催を促し、相互理解を深め大学全体の共通課題として課題解決に取り組む体制の構築に努める。(開催ノルマ：全体FD 1回以上、学部・学科FD各1回以上)

- ・教職協働体制の強化を行い、全事務部が参画した研修会の企画・運営にあたる。

(全学開催)

令和7年8月7日『GPS-Academicの受検結果と運用計画』

令和7年9月3日『「教養」教育の新たな展開に向けて』

令和7年9月17日『Teamsの利活用について』

令和7年12月4日『大学教員のための生成AI実践講座』

(学部・学科開催)

令和7年11月18日『次世代医療に求められる薬剤師の職能と責務』(薬学科)

令和7年11月11日『教育、研究でも使えるCHATGPT/NOTEBOOKLMの応用』(薬学科)

令和8年2月17日『授業における著作権～教職員が知っておくべき著作権の知識から』

(社会福祉学部)

令和8年3月13日『病院が求めるスタッフ～教育現場ではどのような教育を望んでいるのか』

(生命医科学部)

令和8年3月17日『医療制度の現状を踏まえたこれからの医療従事者の育成』

(臨床心理学部)

## 2. SDの実施

大学事務局が中心となり、SD研修の活性化を図ることで、教職協働による大学の更なる学生サービス向上に努める。

・全体SDに加え、各事務部門や各学部・学科でのSD開催を促し、「学生サービス向上」を全体の共通課題として、課題解決やサービス向上に取り組む体制の構築に努める。(開催ノルマ：全体SD 1回以上、個別SD各1回以上)

・本学独自のSD実施に加え、高等教育コンソーシアム宮崎等による他大学との共同SDの開催にも注力する。県内大学で相互に協力することで、本学単独では実施が難しい分野でのSD研修開催を目指す。

(高等教育コンソーシアム宮崎合同FD/SD研修会開催)

令和7年7月29日『シラバスなど身近なところで進める教育の内部質保証』

令和7年12月10日『大学におけるデジタル教科書導入のリアル』

(全学開催)

令和7年8月5日『コンプライアンス研修会』

令和7年9月22日『ハラスメント防止研修会』

令和7年9月30日『心の健康に関する研修会』

令和7年2月10日『心の健康に関する研修会』

令和8年2月16日『研究倫理研修会』

(事務局開催)

朝礼開催時 『事務職員研修報告会』

\*不定期開催 事務職員が参加した研修や事務職員が情報共有すべき事項について研修

## 3) 研究活動の支援

地域における中核的な研究拠点として、本学ならではの強みや特色を活かした研究が推進できるよう、更なる研究環境の整備・改善を行うと共に、産学官連携を中心とする研究マネジメント体制の強化に取り組む。

### ・研究力強化の取組

学長裁量の一環として、学内の研究活動の推進と学内の教育改革や学修環境の改善に取り組むことを目的として、「研究助成経費」と「地域創生事業助成経費」二つの研究費助成に取り組んでいる。

具体的には、「研究助成経費」は教員の研究活動の推進を図る為の取り組みで、「地域創生事業助成経費」は延岡市周辺の地域創生事業での社会貢献活動や教育方法・学修環境の改善を目的としている研究への助成の取り組みである。これらの研究で得られた成果は、学内及び広く地域住民の目に留まる方法で、学内に限らず一般の方にも広く研究成果をアピールする。

学内資源の配分を見直すことで、教員の研究に対するモチベーションの向上にも繋げ、研究力強化を図る。

令和7年度	研究経費助成	6件	2,720千円
-------	--------	----	---------

令和7年度	地域創生事業経費助成	5件	1,070千円
-------	------------	----	---------

### ・外部資金獲得の促進

補助事業、受託事業、寄付事業などからの資金を積極的に受け入れ、教育と研究の推進を図る。特に、国内外との共同研究を重視し、その成果を学術論文として定期的に発表することを義務的目標とする。

これにより、研究者の業績向上を促進し、その成果が他の研究活動にも波及することを期待する。さらに、商品化が可能な大学の知的財産としてリソースを共有することで、共同研究活動の推進を図る。

特定機関からの外部資金(科学研究費など)の獲得に限らず、教員個々での外部資金獲得を奨励し注力することで、令和7年度の外部資金総額の獲得増加を目指す。

令和7年度の外部資金の獲得状況は以下のとおり

『科学研究費補助金』(日本学術振興会・厚生労働省) 合計額：25,805千円\*分担受領額を含む

『AMED』合計額：1,820千円

『受託研究』(阪元醸造、再春館製薬、延岡市、野口顕彰会) 合計額：1,740千円

『研究助成』(日本健康アカデミー) 合計額：900千円

『共同研究』(食品検査・研究機構、都城高専) 合計額：968千円

『受託事業』(宮崎県、延岡市、木城町、福岡県) 合計額：15,951千円

『特別寄附』(尾崎眼科、千代田病院等) 合計額：4,800千円

### ・研究サポート体制の強化

研究設備の修理や更新を計画的に実施することで、適切な研究環境の整備・維持に努める。

また、研究費の適正な使用や資源配分、必要に応じたRAなどの人的支援の検討を行うことで、教員の研究活動をサポートする。

具体的な研究サポートとしては、研究推進部門会議を中心に、外部資金獲得の為の申請書の書き方の講習会や採択に向けたアドバイスの実施、申請書の事前確認などを実施する。

令和8年度の科学研究費補助金をはじめ、研究助成金の採択に向けて、学内グループウェアにて各種助成金の案内や、AIを活用した助成金マッチングシステムの運用を開始したこと、また、申請書の書き方やチェックにおいてもAIの活用を推進した。

## VI. 安定した大学運営の確立に向けて

### 1) 入学生の確保

#### ・ブランディングの強化

「ブランディング委員会」を設置して、委員は学科及び事務の若手・中堅層を中心とし、本学の強みを積極的に活用できるアイデアの創出、そのアイデアを改革に反映できる体制でブランディングを推進する。

#### 1) 特色の明確化(他大学との差別化)

教員と職員が総合的な連携と理解を深め、教育内容の充実、学生満足度の向上、特色の明確化を図る。特に他大学との差別化を念頭に置いて明確化を図っていく。

医療および福祉の専門的な教育および医療福祉連携に関する学び、地域に還元される活発な研究あるいはボランティア活動、国家試験合格率や就職率の高さを特色として、説明会などにおいてはその対象地域にあった資料を各学科が作成し、広報活動を実施した。

#### 2) 大学全体の知名度アップ

大学名変更、応援学費の導入、地域密着型である“大学”全体の魅力をSNS、CM、新聞広告を活用し、広く発信することで知名度を上げる。

2025年4月1日にホームページと大学案内をイメージおよびデザインを重視した内容に刷新し、応援学費を中心に募集活動を展開した。また、インスタグラムの活用により、学生生活やト

ピックスなどについて、学生スタッフと職員により定期的な配信をおこなった。

#### ・アドミッションポリシーの見直し

各学科の特色の明確化、差別化を踏まえたアドミッションポリシーの見直しを行う。

今年度はアドミッションポリシーと入試内容の整合性を中心に見直しを行い、アドミッションポリシーに沿った面接評価を実施した。

#### ・情報発信

- 1) 各学科の特色を、宮崎県内、沖縄、東九州エリアを中心に教員と職員が協力して高校訪問を行う。また、ガイダンスへの参加を増やし、直接生徒に説明することで本学のファンを増やす。  
(オープンキャンパスへの参加促進)

昨年同様に県内外の高校内分野別ガイダンスに各学科教員が積極的に参加した。また今年度は熊本、福岡、沖縄、鹿児島県内の一部地域の高校訪問を教員が行った。

- 2) DM、SNSを通じたオープンキャンパスなどの本人にとって有益な情報をセグメントして発信することで、来場者、資料請求者を増やし、受験率を上げる。

定期的なLINE等での配信を通じて、オープンキャンパス情報、入試に関する情報の提供をおこなった。しかし、受験者数は昨年度を下回った。

#### ・オープンキャンパスの充実

- 1) 無料送迎バス(宮崎、大分)の運行により、より参加しやすくすることで参加者数を増やす。
- 2) 各学科がイベント内容や掲示、配布物を見直しを行い参加した生徒の満足度をあげ、受験につなげる。
- 3) 在学生を積極的に活用することで、参加した保護者の大学への好感度を上げる。
- 4) また来たいと思わせるように盛りだくさんのイベントを実施する。

上記計画の無料送迎バスの運行や早期の告知等により、オープンキャンパス参加者数は増加した。今年度の6月・7月・8月オープンキャンパス参加者数は、1071人(昨年比110%/昨年969人)となり、そのうち高校生は485人(昨年比112%/昨年432人)であった。全体説明やミニ講義等は、昨年度の実施内容を踏まえて再検討の上実施した結果、参加者のアンケートからは充分満足してもらえている内容であったと評価できる。しかし、いくつかの問題点もあり、今後は更なる改善が必要であった。これらの結果を広報委員会で報告し、引き続き満足度の高い内容で実施できるよう各学科で反省点や見直しなどをまとめている。

3月のオープンキャンパスについては、高校生数は微増、総来場者数は減少となった。

### 2) 大学運営における意思決定体制の整備

理事会や評議員会で決定された使命・目的の達成に向けた基本事項(特に経営的な事項)が、大学運営における意思決定として、円滑に執行が為されるよう、中核センター会議や代議員教授会などの実効性が高い大学内の会議と連動して、着実な実施が行われる体制整備に努める。

内部質保証委員会や自己点検・自己評価委員会においても、理事会や評議員会の機能をチェックすることで、適正なPDCAサイクルの実施体制を構築する。

内部質保証委員会において、本学の自己点検・自己評価の状況を確認し、適正なPDCAサイクルの実施に向けて改善指示を行った。

### 3) 財務基盤の確立

大学を運営するために必要な財務基盤を確立させる為、収入と支出のバランスが取れるよう、学生確保(授業料収入の増加)や外部資金獲得に努めることで収入の安定を目指す。

また、計画的な予算執行を行い、変動費や不要な固定費を押さえることで、支出の削減に努め、安定した財務基盤の確立に努める。

現在の入学定員不充足の状況を踏まえ、入試広報室を中心に定員充足に向けた改善協議を進めると共に、経常収支差額のマイナスを是正するべく見直しを行う事で、財務基盤の確立に努めた。

また、補助金等の申請を積極的に行うことで 外部資金の獲得に注力している。

#### 4) 適正な会計処理の実施と厳正な監査体制の整備

##### ・適正な会計処理の実施

###### 1. 明確な方針の確立

教職員が共通理解できるよう会計方針や手順のマニュアルを適宜更新し、馴れ合いや曖昧な処理を防ぐため、業務の透明性と抑止力のある体制づくりに努める。

会計処理に関する教職員の共通理解を図るため、マニュアルの内容を見直し必要な箇所を更新を行った。あわせて、日常業務における運用を通じて課題の把握にも努め、必要に応じ改善につなげた。

###### 2. 適切な教育

日常業務を通じて課題を見直し不足する点について学びを深め、実務と教育を両立させ適正な会計処理の推進を図る。

適正な会計処理の推進に向けて、日常業務の中で生じた課題を課員間で共有し、対応方法を検討する取り組みを継続して行った。また、コンプライアンス研修を受講するなど、基本的な知識の確認と理解の促進に努めた。

###### 3. 連携とコミュニケーション

スムーズな意思疎通と業務効率の向上を目指すため、部署間や教職員間の円滑なコミュニケーションを図る。

部署間および教職員との円滑なコミュニケーションに努め、日常業務においては、課員が協力して丁寧な対応を継続した。また、照会や相談事項についても、適宜情報共有を行い業務の円滑な遂行に繋げることができた。

##### ・会計監査の厳正な実施

今年度の事業計画に配慮した予算作成を行う事で、年度途中で修正する補正予算と著しくかい離が生じない様に気をつけると共に、適正な会計処理に努める。

また、公的研究費の管理監査ガイドライン等に基づいた執行ルールに従い、ミスや不正を防ぐ管理体制の構築を図る。

今年度の事業計画に基づき予算執行を行った結果、補正予算との大きな乖離もなく概ね計画どおりに推移した。会計処理についても、関連規定および公的研究費の執行ルールに基づき適正に実施しており、常勤監事による監査においても大きな指摘はなかった。

## VII. 通信教育の拡充

### 1. 資料請求から入学につながる広報活動の実施

デジタル広告の実施により大学名称及び学科名の変更の認知という点では成果はあり資料請求数は増加したが出願に結び付かなかった。早い段階での出願書類等の作成やリターゲティング広告を取り入れ出願者確保につなげる。

デジタル広告を実施しそこからのホームページ誘導によりホームページからの資料請求は前年

度と比較し伸びたが出願者を増やすには至らなかった。

## 2. 学生サポート体制の充実

バーチャルキャンパスを利用した学生対象のイベントを取り入れ、学生相互のコミュニケーションや教員と学生の相互理解を図る。また再度、丁寧な学生対応とは何かを課員で考え、よりよい学生サポート体制を構築する。

新入生に対して春期、秋期入学生に対してオンラインにてオリエンテーションを実施し学生サポートに努めた。また電話等での相談には丁寧に対応した。

## 3. 通信教育部のオンライン化の充実

現在、冊子体で配布している添削課題を来年度からデジタル化しオンラインで解答、提出できるように準備を進めていく。また科目のオンデマンド化を進めるために教員との連携を図り、速やかに取り掛かれるように調整を進めていく。

4月より添削課題をデジタル化しオンラインで解答、提出できるようにした。オンデマンド科目の設定については現在も調整中である。

# VIII. 地域貢献の取組強化

## ・地域連携事業の強化

毎年本学で開催している「のべおか市民大学院」や「公開講座」などの市民向け学習支援事業や「定住自立圏フィールド調査事業」や「宮崎産業イノベーションプラットフォーム」などの産官学での地域貢献事業を今年も実施し、引き続き地域に開かれた大学として連携強化に努める。

令和7年度の「のべおか市民大学院」や「公開講座」などの市民向け学習支援事業は、予定どおり実施した。(のべおか市民大学院 受講生 51名、公開講座 受講生 65名)

「定住自立圏フィールド調査事業」「木城町連携事業」などの地域貢献事業についても、令和7年度も引き続き受託した。

## ・子ども支援プロジェクトの推進

毎年延岡市教育委員会と共催している「のべおか子どもセンター」や延岡市おやこ保健福祉課の委託で実施している「ジョイフルキッズクラブ」、本学園独自の生活困窮世帯の子ども支援として実施している「順正デリシャスフードキッズクラブ」など、子ども支援の為の社会貢献プロジェクトを今年も実施する。

「のべおか子どもセンター」、「ジョイフルキッズクラブ」、「順正デリシャスフードキッズクラブ」などの子ども支援の為の社会貢献プロジェクトについては、当初予定どおり今年度も実施した。

## ・防災活動の支援・実施

九州医療科学大学は、災害発生時の指定緊急避難場所として延岡市の指定を受けており、例年台風等の災害発生時に避難所開設に協力している。

また、宮崎県や自衛隊等からも大規模災害発生時の県北活動拠点の1つとして指定を受けており、大規模災害を想定した医療活動訓練や県外からの受援訓練などにも協力している。

令和7年度についても、引き続き、指定緊急避難場所として延岡市に協力すると共に、スポーツ健康福祉学科の救急救命コースが昨年度開設されたことに合わせて、学内外での災害ボランティア訓練の実施や復興活動・募金活動への協力を実施し、積極的な防災活動への支援・協力にも努める。南海トラフ地震の発生に備えて、学内の防災意識が更に向上し、防災活動への積極的な参加・支援、協力を行った。

## 主な活動

令和 7 年 6 月：災害時指定避難所開設打ち合わせ（延岡市危機管理課）

令和 7 年 10 月：大規模地震時機能移転訓練（延岡警察署）

令和 7 年 12 月：消防・防災訓練（九州医療科学大学）予定

令和 7 年 12 月：延岡市避難所運営マニュアル（開設手順書）作成協力（延岡市）予定

また、昨年度に引き続き避難物資の備蓄等の充実にも努めた。

## IX. 倫理教育等の独自教育分野の強化

### ・人権啓発活動の周知

九州医療科学大学では、宮崎県人権啓発推進協議会や宮崎県人権同和対策課に協力して人権啓発セミナーを本学で実施するなど、人権啓発活動の推進に積極的に取り組んでいる。

令和 7 年度も引き続き、「学生による人権啓発活動の実施」をテーマにして、学生による人権啓発活動を実施すると共に、宮崎県北部地域を中心に更なる人権啓発活動の周知に努める。

### ・ハラスメント防止対策の強化

ここ数年、学内でのキャンパスハラスメントが立て続けに発生した事を重く受け止め、本学教職員に対しては、強くハラスメント防止の周知を行うと共に、ハラスメント防止の為の研修会を実施するなど、ハラスメント防止対策の強化に努める。

また、学生に対しても、ハラスメント相談窓口を広く周知すると共に、通報体制を更に強化するなど、ハラスメント防止体制の強化に努める。

令和 7 年 9 月 22 日に全教職員を対象にハラスメント防止研修会を実施し、ハラスメント防止に対する意識を強化すると共に、具体的な事例を紹介・説明することで、教職員への注意喚起を図った。

### ・数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの推進

令和 6 年 8 月に文部科学省の認定を得た本プログラムの更なる推進を目指し、実施体制強化に努め、必修化など教育課程の再編・検討を行う。

リテラシーレベルでの認証を得ることが出来ており、来年度以降に向けては、上位認証の獲得を目指すと共に、情報教育センターを中心にプログラム内容の点検・評価にも努める計画である。

## X. 国際化の推進

### ・海外留学・短期研修等の促進

海外留学・短期研修プログラム等に参加を希望する学生に対してのサポートを確実に遂行する。

#### 派遣実績

派遣先	派遣人数	派遣期間	内容
フィンドレー大学	教員 1 名	9 月 8 日～9 月 15 日	今後の交流の打合せ、医療施設の見学、研究機関との交流

#### 受入実績

受入機関	受入人数	受入期間	内容
フィンドレー大学	学生 5 名、教員 2 名	5 月 11 日～24 日	医療施設見学、文化交流
キングモンクット大学	学生 16 名、引率 1 名	5 月 11 日～23 日	医療施設見学、文化交流

### ・留学生に対する支援の充実

除籍・退学が出ないための支援をする。言語的・文化的に十分な意思疎通が難しい留学生にとっては相談できる場所も限られるため、相談できず不安を抱え込んでしまうことも想定される。構内においては積極的な声掛け等を実施するなど留学生の相談体制を整備する。

また、教育後援会の留学生支援経費を活用して日本人学生との交流イベントなどを企画して学業以外での見識を深めることへの支援をする。

10月4日（土）教育後援会の留学生支援経費を活用して、日本人学生との交流会を開催した。留学生を含め12名で宮崎県日南市を中心とした日帰り旅行を実施し、相互に交流を深めることができた。

### ・英語村の整備・活用

英語村内における学科、学年を問わない日常的な交流に加えて、2名のネイティブスピーカーによる英会話レッスンと毎月1回の英語村主催による各種イベントを実施する。

昨年度から10号棟に移動したことが功を奏し、学生が訪問しやすくなったことが結果にも表れた。英語村が企画するイベントには、昨年度と比較して、学年や学科の枠を越えた多くの学生の参加がみられている。

## I. 令和7年度教育方針

### 【学校全体の目標】

1. 今まで同様、学修成果を目に見える形にし、学修者本位の教育を実践することで、看護師国家試験合格率及び入学定員充足率 100%を目指す。
2. 広報戦略として組織的にパンフレットやホームページの再構成に取り組み、学科の魅力ある教育活動の発信に努める。
3. 退学者ゼロ及び県内就職率 60%以上を目指す。

## II. 各事業の概要

### 1. 教育関係

【今年度の目標】《 》は第3期中期計画・目標に該当する項目番号

1. 看護師国家試験は協力体制を整え全学年で対策を講じ合格率 100%を維持する。《 I-2 》
2. 本校の魅力や強みを発信し入学定員充足率 100%を目指す。《 II 》
3. 学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し成績不振による退学者ゼロを目指す。《 I-1,5 》
4. 県内就職率 60%を目指す。《 V 》

### 【具体的な手立て】

1. 看護師国家試験は協力体制を整え全学年で対策を講じ合格率 100%を維持する。
  - 1) 学生が段階的、主体的に単位が習得できるよう各学年運営の指導計画を立案し実践する。
  - 2) 教員各自が国家試験の出題傾向を踏まえた講義、実習指導を実践する。
  - 3) 国家試験対策や臨地実習において学生が思考し評価修正していく力を引き出し、知識の定着を図る。
  - 4) 教員間で情報共有を行い、学生の学力やモチベーションを見極め、時宜を得た対策を講じる。
  - 5) 定期的に臨地実習での問題点を共有し、教員の实習指導における指導力を強化する。
  - 6) 教員の役割分担を明確にし、3年生国家試験対策担当の教員が、対策に集中できる環境を整える。

### 【事業報告】

各学年の年度計画に基づいた運営を行っており、3年生は国家試験対策、模擬試験など計画的かつ学生状況を考えながら実施したが、国家試験不合格者が1名であり目標達成が出来なかった。

## 2. 本校の魅力や強みを発信し入学定員充足率100%を目指す。

- 1) 事務室と連携し、学校紹介に繋がる行事やイベントへの積極的な参加、パンフレット・ホームページでの卒業生による紹介など高校生や保護者、実習施設に本校の特色や魅力をPRする。オープンキャンパスに参加できない学生についての個別説明を実施する。
- 2) オープンキャンパスの方法を検討し、本校に興味を持てるようなオープンキャンパスを実施する。
- 3) 地域の中で求められる卒業生を送り出すことで本校の社会的評価や信頼度を高め、入学希望者の増加に繋げていく。

### 【事業報告】

予定通り学校見学会を三回実施することができた。オープンキャンパスの内容を見直し、学生作成の学校紹介の動画を使用し学校生活のイメージがしやすいように工夫した。

看護協会でのイベントや高校説明会への参加等、事務室と連携し積極的にPRを行ったが、定員充足率は52.5%で目標達成に至らなかった。

## 3. 学生の就学困難な兆候を見逃さず対応し成績不振による退学者ゼロを目指す。

- 1) 教員間で必要な情報を共有することで、学生状況を把握し学生の心身の変化を見逃さず、受講状況、学習内容の理解状況に応じて個別の指導を行う。必要時、保護者を交えて面談し対策を講じる。
- 2) 看護に魅力を感じることができるよう、また看護師の資格取得に意欲が高まるように講義や実習を通し関わる。
- 3) 入学後の学修の不安や成績不振を改善するため、入学前教育を継続し入学後の指導に活かす。
- 4) 感染状況を考慮し学習会やオリエンテーション等の学年を越え学生同士が交流できる機会を設け、学生生活のモチベーションの向上に繋げる。

### 【事業報告】

担当学年を超えて教員間で必要な情報交換を行い、学年担任、チューター及び実習指導教員が細かく対応した。メンタル面、アルバイトを含む生活面など学生に適宜声を掛け、家庭での協力も得られるように保護者への連絡、面談を実施した。退学者は11名であり、昨年度より2名増加している。進路変更に伴う就職、メンタルの問題による登校困難、結婚出産などの生活環境に起因する理由で退学となったケースが多く、成績不振によるものは1名だった。

## 4. 県内就職率60%を目指す。

- 1) 県内に就職した卒業生の状況や病院からの資料は優先的に掲示、伝達する。
- 2) 県内に就職した卒業生が来校した際は、在校生に病院や看護の魅力伝える機会を設ける。

- 3) 臨地実習の機会を活用し、看護部長・病棟師長・指導者などから看護の魅力や就職に繋がる病院情報を得る機会を積極的に設ける。
- 4) 宮崎県看護師等修学資金、県内の病院奨学金制度、宮崎大学医学部附属病院推薦採用枠などの活用について学生状況を見極めつつ勧めていく。

#### 【事業報告】

県内の病院、施設の就職情報を優先的に掲示した。卒業生の来校時には、在學生に就職状況や看護の魅力などについて話してもらい機会を設けた。実習時には、各病院の魅力を伝える内容のオリエンテーションも看護部より実施していただいたが、県内就職率は60%を達成した。関連大学への編入学は2名、その他の学校への進学は2名だった。

## 2. その他

#### 【今年度の目標】 《 》は第3期中期計画・目標に該当する項目番号

1. 自己点検・評価を実施する。《Ⅳ》
2. 適正な予算執行と学習環境の整備に努める。《Ⅲ》

#### 【具体的な手だて】

##### 1. 自己点検・評価を実施する。

自己点検評価、及び学校関係者評価を実施し、ホームページ上で公表する。

#### 【事業報告】

自己点検評価報告書を作成し、それをもとに学校関係者会議8月6日に開催した。委員からは、本校の自己評価に沿った評価をいただいた。

##### 2. 適正な予算執行と学習環境の整備に努める。

- ・重要性、必要性の裏付けを伴った予算執行を行う。
- ・省エネの啓発を頻繁に行う。
- ・学生の自主学習意欲に応えられるよう、校内の環境整備を行う。

#### 【事業報告】

学校全体の予算執行は計画に沿って進めることができた。

毎月の電気使用量を教職員会議で共有し、省エネ意識の向上を図り年間使用量を若干減らすことができた。

学習環境の整備については、年次計画に基づき適宜、修理・更新を行った。建物関係では教室の空調機更新を3ヶ所、老朽化で停止していた地下水ピットのポンプ1機を取り換えた。